

事業報告

2022 訪問看護認定看護師による
在宅ケア・在宅看取り活動の推進
事業報告書

はじめに

会員の皆様、いつも本会の活動に多大なご協力をいただきまして、感謝いたします。

新型コロナウイルスは、終息を迎えようとしています。皆さんと多くの波を、一緒に乗り越えて来ることができましたことに感謝いたします。

この3年間は研修会のあり方も感染状況に合わせ、今までの集合研修からWeb研修、ハイブリット研修へと変化し、創意工夫をしながら互いに学び合い自己研鑽をして参りました。インターネットによる会議や研修など集会のあり方も大きく変化しました。変化していないのは、会員の皆様の地域医療に対する熱意と私たちのネットワークの強さです。

訪問看護認定看護師、在宅ケア認定看護師は、どんな状況であってもその環境に柔軟に対応して前進していると自負しています。

2009年8月、全国で活躍している100名の仲間とともに当時の先輩方が訪問看護認定看護師のネットワーク構築と質の向上を目指して、日本訪問看護認定看護師協議会を設立しました。そして、2014年10月にさらなる活動の充実を目指し、一般社団法人日本訪問看護認定看護師協議会として法人化されました。

2023年は、法人事業年度第10期を迎えます。これを記念して、東京で皆さんと顔と顔の見える集会を考えております。その時は、ぜひとも仲間とともに、ネットワークを深めたいと考えております。

私たちは、常にどんなことにもチャレンジしてきました。そしてこれからも、まだ見ぬ世界があると信じて、前進していく所存です。

現在も地域密着の看護にあたっておられる会員の皆様が、現場のマネジメントに尽力しながら実践・相談・指導の活動をされておられる姿に、心から敬意と感謝を表します。

今後も発展し続ける日本訪問看護認定看護師協議会であり続けます。

最後に、日本財団様におかれましては多大なるご支援をいただきましたこと、心から感謝いたします。

2023年3月吉日

一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会
代表理事 大橋 奈美

目次

はじめに

第1章 事業の概要	1
1 事業の目的	
2 事業の目標	
3 事業のスケジュール	
第2章 事業の活動報告	7
1 ブロック活動	
(1) 北海道ブロック	
(2) 東北ブロック	
(3) 北関東ブロック	
(4) 関東ブロック	
(5) 南関東ブロック	
(6) 東海北陸ブロック	
(7) 近畿ブロック	
(8) 中四国ブロック	
(9) 九州ブロック	
2 総会及び同時開催研修会、交流会 2022	
3 訪問看護事業所の運営及び多機能化へのコンサルテーション活動	
4 報酬改定に向けた活動	
第3章 事業の評価	41
1 ブロック活動	
2 総会及び同時開催研修会、交流会 2022	
3 訪問看護事業所の運営及び多機能化へのコンサルテーション活動	
4 報酬改定に向けた活動	
別添資料	47
1 会員数及び9ブロック図	
2 組織について	
3 理事会等及び総会の開催	
4 会員活動調査集計結果（一部抜粋）	

訪問看護認定看護師数・在宅ケア認定看護師数（日本看護協会 認定部資料）

第1章 事業の概要

- 1 事業の目的
- 2 事業の目標
- 3 事業のスケジュール

1. 事業の目的

平成4年の老人訪問看護制度発足以降、在宅での医療ニーズは拡大し、0歳から100歳超への様々な年代、難病、精神疾患、先天性疾患など多様な支援が必要となった。

現在の日本の医療政策では、急性期が過ぎて症状が安定した患者は在宅療養生活への移行を推進しているため、更なる拡大が予測される。患者や家族が自宅に戻った場合、介護保険制度等の利用も促進されているが、患者本人や家族が担う役割も多い。しかし、利用者の高齢化、独居世帯の増加などから患者本人や家族が担いきれない状況もある。また、地域の在宅医療資源や質の格差が生じ対応できず、施設での生活も、望まない施設での生活を余儀なくされている現状がある。

このような背景から、以下のとおり目標を設定した。

中長期目的 ※3年後

- ブロック活動を強化、支援することで個々の質向上を図り、地域への基幹(リーダー)的な役割を担うことができる。
- 自身の地域に旬な情報発信を行い、他の訪問看護師や地域の質向上を図り格差を是正できる。
- 地域住民への在宅療養の方法等の情報発信を行い、地域全体で住民生活の支援ができる。

最終目的

多くの人が「住み慣れた場所・地域」で心豊かに生活が継続でき、人生最期の時まで自身の望んだ場所で過ごすことができる社会を目指す。

そのために医療・看護・介護従事者、住民、自治体が連携し在宅看取りも選択できる社会となることを目的とする。

2. 事業の目標

(1) 自己研鑽活動

① ブロック活動支援

〔目標〕自己研鑽の研修、交流会、研究活動、地域向け研修会、会議、その他を主な活動として、全国9ブロックで年間2回程度の活動を実施する。9月までに次年度計画をたてる。

〔評価〕活動実施報告書の作成・アンケートにて満足度評価(8割満足目標)。

② 総会及び同時開催研修会・交流会

〔目標〕協議会会員が一堂に会する場を年2回設ける。

〔評価〕全体研修会・交流会の実施・アンケートにて満足度評価(8割満足目標)。

(2) 地域貢献・社会活動

① 訪問看護事業所の運営改善相談活動・多機能化サポート活動

〔目標〕 1) 座談会式相談会の開催。

2) 1) の参加者の中から、希望者のみマンツーマンでの相談「個別 Web 相談」を 1 回開催。

3) 多機能化を検討している方向けのオンラインセミナー（多機能化開設事例）を 1 回開催。

4) 協議会 HP で会員の多機能化事業所を紹介する。

〔評価〕 1) 及び 3) 参加者各 20 名の実施・アンケートにて満足度評価（8 割満足目標）。

② 報酬改定に向けた活動

〔目標〕 2024 年度 W 改定に向けた提言案の作成。

〔評価〕 前年度実施調査を元に提言テーマの決定と提言内容の作成。次年度の提出計画をたてる。

(3) 組織・広報力の強化

① 組織・広報力の強化

〔目標〕 ホームページや Facebook による情報発信。事業報告書及びパンフレットの制作・配布。理事会を年 3 回、理事ブロック長合同会議を年 2 回実施する。入会促進 PR を行う。

〔評価〕 ホームページでの活動報告書の公開。事業報告書及び協議会パンフレットの制作。入会率の向上（訪問看護認定看護師の 6 割確保）。

以上の活動によって、訪問看護認定看護師及び在宅ケア認定看護師の社会的意義を高め、地域包括ケアシステムの構築に貢献できる人材となり、結果、地域住民がその人らしく最期まで暮らせる社会の構築に寄与する。

3. 事業スケジュール

本事業は、以下のスケジュールで行った

	月	日	内 容	ブ ロ ッ ク	開 催 方 法
2022	4	1	ブロック会議	北海道	Zoom
		19	ブロック会議	関東	Zoom
	5	14	第 1 回理事会	—	Zoom
		21	ブロック会議	北関東	Zoom
			ブロック会議	南関東	Zoom
	6	11	2022 年度 第 9 期定時総会 臨時理事会 第 1 回理事・ブロック長合同会議	—	Zoom

2022	6	11	2022年度 総会同時開催研修会	—	Zoom
		28	ブロック会議	関東	Zoom
		30	報酬改定に向けた活動 運営会議	—	Zoom
	7	3	ブロック会議	北海道	Zoom
		9	研修会・ブロック会議	東北	Zoom
			研修会・ブロック会議	中四国	Zoom
		13	ブロック会議	東海北陸	Zoom
		27	ブロック会議	九州	Zoom
	30	ブロック会議	北関東	Zoom	
	8	3	ブロック会議	九州	Zoom
		4	ブロック会議	関東	Zoom
		6	(研究協力活動①)	中四国	Zoom
		18	ブロック会議	九州	Zoom
		20	研修会・ブロック会議	北関東	ハイブリッド
		27	ブロック会議	南関東	Zoom
	ブロック会議		近畿	Zoom	
	9	3	(研究協力活動②)	中四国	Zoom
		6	ブロック会議	北海道	Zoom
		8	Zoom リハーサル	東海北陸	Zoom
		9	ブロック会議	九州	Zoom
		10	第2回理事会	—	Zoom
			ブロック交流会・ブロック会議	南関東	Zoom
		12	ブロック会議	関東	Zoom
	17	研修会・ブロック会議	東海北陸	Zoom	
	10	6	ブロック会議	九州	Zoom
		13	ブロック会議	近畿	Zoom
		15	(研究協力活動③)	中四国	Zoom
		22	研修会・ブロック会議	関東	ハイブリッド
		25	ブロック会議	九州	Zoom
		30	研修会・ブロック会議	東北	Zoom
	11	1	地域貢献活動(ミニ講座&座談会) 運営会議①	—	Zoom
		5	ブロック会議・研修会	九州	対面式・ハイブリッド

2022	11	16	ブロック会議	東海北陸	Zoom
		26	地域向け研修会	北関東	Zoom
	12	4	研修会・ブロック会議	近畿	Zoom
		6	ブロック会議	関東	Zoom
		11	2022 年度 交流会	—	Zoom
2023	1	7	ブロック会議	北関東	Zoom
		11	Zoom リハーサル	東海北陸	Zoom
		12	地域貢献活動(ミニ講座&座談会) 運営会議②	—	Zoom
		14	研修会	北海道	Zoom
		15	報酬改定に向けた活動 作成作業	—	—
		18	ブロック会議	関東	Zoom
		28	ブロック会議	北関東	Zoom
			研修会・ブロック会議	南関東	Zoom
			Zoom リハ・交流会 ブロック会議	東海北陸	Zoom
		29	地域貢献活動(ミニ講座&座談会)	—	Zoom
			地域貢献活動(ミニ講座&座談会) 運営会議③		
	31	報酬改定に向けた活動 作成作業	—	—	
	2	4	交流会・ブロック会議	関東	Zoom
		20	ブロック長会議	—	Zoom
	3	4	第3回理事会	—	Zoom
			第2回理事・ブロック長合同会議		
	13	ブロック会議(予定)	近畿	Zoom	

※開催方法についてはその時の状況によるが、オンライン開催を基本とした

※3月5日時点での取りまとめのため、それ以降については予定

第2章 事業の活動報告

- 1 ブロック活動
 - (1) 北海道ブロック
 - (2) 東北ブロック
 - (3) 北関東ブロック
 - (4) 関東ブロック
 - (5) 南関東ブロック
 - (6) 東海北陸ブロック
 - (7) 近畿ブロック
 - (8) 中四国ブロック
 - (9) 九州ブロック
- 2 総会及び同時開催研修会、交流会 2022
- 3 訪問看護事業所の運営及び多機能化へのコンサルテーション活動
- 4 報酬改定に向けた活動

1. ブロック活動

- (1) 北海道ブロック (ブロック長：古川典子氏)
正会員数 9名



① 年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加人数
2022年 4月1日(金)	会議	・近況報告、北海道ブロックへ加入した会員の自己紹介など ・今年度の研修に向けての話し合い	8人
7月3日(日)	会議	・令和4年度研修会の計画について ・メンバーの近況報告(コロナ関連) ・今年度の活動の話し合い	6人
9月6日(火)	会議	・令和4年度研修会の内容について ・令和5年度活動計画について ・その他、情報交換	7人
2023年 1月14日(土)	研修会	ブロック研修会 「在宅ケアのための判断力トレーニング」	7人

② 活動を通して

集合することが時間的にも経済的にも個人の負担が大きいと感じる地域だが、Zoomのおかげで定期的に委員会を開くことができたことは良かった。

会員数は少ないが、一つの画面に皆がそろって顔を合わせ、お互いの表情が見えることは、親近感をより感じられる活動になった。北海道ブロックは委員全員が協力してくださる気持ちが感じられ、それぞれの住んでいる地域は広く遠いが、心は近く暖かい。

研修会はブロック会員だけでの開催だったが質疑応答も活発になり、自分たちの糧になる研修だった。

※活動の詳細は、ホームページで公開しております。QRコードを読み取り、ぜひご覧ください



(2) 東北ブロック (ブロック長：平澤利恵子氏)
正会員数 10名



① 年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加人数
2022年 7月9日(土)	研修会	ブロック研修会 「精神訪問看護の実際と、地域の訪問看護ステーションが精神訪問看護を実施するために必要な事」	6人
	会議	・第2回の研修会の内容について	
10月30日(日)	研修会	ブロック研修会 「BCPを作成するために必要な事」	6人
	会議	・来年度の活動確認 ・近況報告	

② 活動を通して

会員が少ない中、それぞれが忙しいにもかかわらず定期的に参加している。

認定看護師がそれぞれの地域で多彩な活動をしている事を知り、刺激を受けている。会話の中から研修のテーマが決まり、自分たちに必要な知識は何かを教えてくれる仲間がいることに感謝している。

広い東北の地で集まることは大変で、この先もオンラインでの活動が多くなると思うが、認定看護師という資格を地域でどう活かしていくかを考える機会を大切に今後も活動していきたい。

※活動の詳細は、ホームページで公開しております。QRコードを読み取り、ぜひご覧ください



(3) 北関東ブロック (ブロック長：山橋直子氏)

正会員数 36名



① 年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加人数
2022年 5月21日(土)	会議	第1回役員会 <ul style="list-style-type: none"> 第1回ブロック会の話し合いの方向性の確認 理事からのお知らせ 	10人
		第1回会議 <ul style="list-style-type: none"> 自己紹介、新役員紹介、新ブロック長あいさつ 「役員選任基準及び役割要項」等の見直し 2022年度の活動計画について 次年度(2023年度)の活動について 	15人
7月30日(土)	会議	第2回役員会 <ul style="list-style-type: none"> 第2回ブロック会での話し合いの方向性の確認 事例検討会と地域向け研修会の企画内容共有 理事からのお知らせ 	8人
8月20日(土)	研修会	事例検討会 「精神科訪問看護の実際」～事例を通して精神科訪問看護の実際を知り、やりがいを見つけよう～	14人
	会議	第2回会議 <ul style="list-style-type: none"> 地域向け研修会開催に向けて進捗状況の共有 次年度のブロック活動年間計画の立案 	17人
11月26日(土)	研修会	地域向け研修会 「特定行為研修」を知ろう！考えよう！つながろう！～特定看護師から学ぶリアルな研修の実情と在宅での活動～	46人
2023年 1月7日(土)	会議	第3回役員会 第3回ブロック会での話し合いの方向性の確認	8人
1月28日(土)	会議	第3回会議 <ul style="list-style-type: none"> 「役員選任基準及び役割要項」の見直し 来年度の役員について 11/26地域向け研修会の報告と振り返り、研修会運営方法の見直し 今年度CN合格者への協議会入会の案内について 	14人

② 活動を通して

本年度は、前期に事例検討会、後期に地域向け研修会を実施した。

会員の方たちが活動に参加しやすいブロック！を目指し、その一つとして、本年度から各県輪番で研修会の企画運営を担当していくことになった。本年度実行委員となる群馬メンバー5名の他に、支援委員として茨城、新潟、栃木、千葉のメンバー10名が加わり、地域向け研修会の企画を進めていった。

事例検討会も地域向け研修会もいずれも役員だけでなく、会員も役割を担っていただき、他会員の方からは会議で意見を頂戴するなどして、北関東ブロック全体で開催できたと感じている。

地域向け研修会の周知の際には、非会員の訪問看護認定看護師の方にも活動の内容を知っていただくために、研修会のポスターと共に、北関東ブロックの活動内容を記したチラシを郵送した。今後も継続し、会員獲得につながるようになっていきたい。

本年度の活動では、今まで交流する機会が少なかった会員の方とも交流することができた。今後もこのような機会を大切にしていき、皆で活動の場を築いていきたい。

※活動の詳細は、ホームページで公開しております。QRコードを読み取り、ぜひご覧ください



(4) 関東ブロック (ブロック長：井上京子氏)

正会員数 58名



① 年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加人数
2022年 4月19日(火)	会議	ブロック委員会 ・今年度の活動計画具体化	5人
6月28日(火)	会議	ブロック委員会 ・10月実施予定の開催予定の研修内容について ・講師打ち合わせ	6人
8月4日(木)	会議	ブロック委員会 ・10月講演に向けて ・役割分担 (案内作成や名簿確認)	6人
9月12日(月)	会議	ブロック委員会 ・10月研修当日の役割確認、次年度の計画作成	5人
10月22日(土)	研修会	ブロック研修会 「BCP 初めの一歩から地域へ ～個別性の高いステーションのBCP から地域の BCP へ～」	22人
	会議	ブロック委員会 ・本日の研修の反省会 ・2月開催予定の研修交流会について	5人
12月6日(火)	会議	ブロック委員会 ・2月研修交流会について	6人
2023年 1月18日(水)	会議	ブロック委員会 ・2月研修交流会スケジュールの最終確認と役割分担	6人
2月4日(土)	交流会	実践報告 ・コロナ禍での変化・活動 ブロック交流会 「認定看護師が交流する意味について」	11人
	会議	ブロック委員会 ・本日の研修の反省会 ・次年度役員の検討	6人

② 活動を通して

コロナ禍の中、集合研修ができるのかできないのか先の見通しがたたないなか、オンライン開催での研修を2つ企画した。一つは対象を全国とし、もう一つを関東ブロック対象とした。BCP研修では自所属のBCPにとどまることなく、地域のBCPについての視点を持つことも学んだ。コロナ禍での変化と活動においては、施設やステーションで活躍されている3人の仲間の実践報告から多くの学びと刺激を受けることができた。短い時間であったが意見交換の場を持つこともできた。

次年度は、今までの活動に加え、ブロック単位よりももう少し小さな単位（地域）の活動につながられるような活動に取り組んで参りたいと計画之中である。

※活動の詳細は、ホームページで公開しております。QRコードを読み取り、ぜひご覧ください



(5) 南関東ブロック (ブロック長：徳重小十代氏)

正会員数 26名



① 年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加人数
2022年 5月21日(土)	会議	・役員顔合わせと年間計画確認 ・9月10日交流会の内容検討を実施	5人
8月27日(土)	会議	・9月10日交流会進行と2023年1月28日研修会について検討 ・2023年度の計画策定	5人
9月10日(土)	交流会	「在宅看取りについて語り合おう」 ・2021年度支援事業の報告 ・「訪問看護認定看護師として何ができるか？」意見交換	10人
	会議	・交流会の振り返り ・2023年計画策定	5人
2023年 1月28日(土)	研修会	ブロック研修会 「家族看護をもっと知りたい」	14人
	会議	・研修会の振り返りと年度のまとめ ・次年度の予定 ・役員交代について確認	6人

② 活動を通して

2021年度「在宅看取りを实践できる訪問看護師の育成事業」の研修会を南関東ブロックでも実施した。今年度はその研修を継続したいという意見があり、在宅看取りに関する取り組みの継続を目指し活動した。まずは会員間で、看取りに関しての実際の困りごとや、悩み等を語る交流会を行った。ステーション内の看取り教育や実際に困った事例、やりがいなど腹を割って話すことで不安の解消や学びになった。それを機に、有志間で継続的に「看取りの会」を実施することに繋がった。そして、次年度はブロック交流会として計画し、実施していく予定である。交流会から、地域で在宅看取りを進めていくために訪問看護認定看護師や在宅ケア認定看護師にできることを探り、次の計画へ少しずつ繋げていく予定である。また、在宅看取りで欠かせない家族看護についても、基本を再度学びたいという声があり研修会を実施した。非会員の参加も募ったが参加はなく、他のブロックからの参加で場が盛り上がった。研修は学びを深めることができ、今後役に立つ内容であった。

研修等は、参加人数がなかなか募れない現状がある。貴重な研修機会でもあり、参加したい者が大勢参加できる工夫が必要だと感じた。

※活動の詳細は、ホームページで公開しております。QRコードを読み取り、ぜひご覧ください



(6) 東海北陸ブロック (ブロック長：山端二三子氏)
正会員数 109名



① 年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加人数
2022年 7月13日(水)	会議	ブロック役員会議 ・9月17日の研修会の内容確認 ・研修日までのスケジュールの調整	11人
9月8日(木)	Zoom リハ	・9月17日の Zoom リハーサル ・役員役割分担と役割の共有	10人
9月17日(土)	研修会	ブロック研修会 「訪問看護ステーションにおける BCP」	47人
	会議	ブロック役員会議 ・研修会の振り返り (研修会と役割の評価と課題) ・来年度の活動について (研修企画)	10人
11月16日(水)	会議	ブロック役員会議 ・1月28日交流会の内容研修日までのスケジュール確認	11人
2023年 1月11日(水)	Zoom リハ	・1月28日交流会の Zoom リハーサル ・役員役割分担と最終確認	11人
1月28日(土)	Zoom リハ	・当日スケジュール確認と進行の共有	5人
	交流会	活動実践報告 ・認定看護師の5年目更新報告 ・COVID-19の在宅療養者の看取り支援 ・みなし訪問看護の特定行為実践 グループ間で情報交換	39人
	会議	ブロック役員会議 ・交流会の振り返り ・来年度の活動計画と役員役割を検討	10人

② 活動を通して

今年度は認定看護師の資質向上を目標とし、会員が指導・相談等の活動に必要な知識と指導力を高めることを目的に、在宅ケアに関連した研修会と交流会を計画した。東海北陸ブロック役員に新しいメンバーが入り、新しい風を吹かせながら1年間の活動を行った。

活動内容は、9月17日に「訪問看護ステーションにおける BCP」をテーマに研修会を開催した。これは、認定看護師の立場から BCP 作成に指導・相談、行政や市民、他職種との連携で

きることを目標に、講義とグループワークをおこなった。また、1月28日の交流会では、認定看護師の5年目の更新報告、COVID-19在宅療養者の看取り支援、特定行為実践の3例の実践報告、参加者間の情報交換等をおこなった。

この1年間の活動を通して、認定看護師として実践・指導・相談の役割の再確認、そして「考える」や「プロセス」の基本的な行動や仲間の大切さ、つながりを深めることができたと考ええる。また、仲間の活動実践報告から新しい情報の取得、気づきや意識改革ともなり、研修会・交流会のアンケート結果からも今年度の目標である資質向上につなげることができたと考ええる。

課題となるのは参加率である。今年度は研修会・交流会とも50%も満たない状況だった。会員の皆さまが学び得られるような企画の検討も必要であると痛感している。

今後は病院・診療所・施設、暮らしの保健室等で活躍している皆さまの活動に活かせる内容、お互いが刺激されるような研修企画をしていきたい。

※活動の詳細は、ホームページで公開しております。QRコードを読み取り、ぜひご覧ください



(7) 近畿ブロック (ブロック長：團野一美)

正会員数 88名



① 年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加人数
2022年 8月27日(土)	会議	・今年度新役員の紹介 ・今年度の活動計画の検討	13人
10月13日(木)	会議	・12月予定の交流会について ・次年度活動計画について、開催方法など検討	14人
12月4日(日)	交流会	R4 近畿ブロック交流会 ・訪問看護認定看護師の活動発表	47人
	会議	・交流会の反省 ・次回会議の検討	14人
3月13日(月) 予定	会議	・次年度の体制確認 ・次年度活動について	—

② 活動を通して

今年度の活動の中心は、近畿ブロック交流会となった。

訪問看護認定看護師の活動発表では、近畿ブロック内の府県代表者が実践している活動を発表し、参加者が今後活動をする上で参考になること、活動へのエネルギーを得てもらうこと、ディスカッションを通して繋がりを得ることを目的とした。

和歌山県の平岡桃重様より「看護業務効率化と地域BCPとその他取り組んでいること」、奈良県の志茂友紀子様より「奈良市訪問看護ステーション連絡会での活動報告～支える人を支える会を目指して～」、大阪府の大橋奈美様より「療養通所介護、児童発達支援、放課後デイを開業して」、兵庫県の稲葉典子様より「CNと管理者の重なる役割で取り組むACPとBCP」、京都府の勝本孝子様より「医療的ケア児を育てながらの活動」、滋賀県の駒井和子様より「滋賀県訪問看護支援について～訪看支援センターと連絡協議会の連携事業より～」発表いただいた。その後、ゲストの宇都宮宏子様よりご意見を頂戴し、参加者でディスカッションを行った。

交流会後のアンケートでは、活動発表会について、大変満足できた(85.7%)、満足できた(14.3%)と回答を得た。「今後の活動に大いに役立つ」、「実践の参考になる」、「他の方の活動を知る機会がないので知る機会となりヒントになった」「皆さんの熱い想いが伝わって励みになった」「なぜその取り組みに至ったのかの経緯や、物語があり感動した」など多くのご意見をいただき、参加者の今後の活動の参考になる内容であり、交流会の効果を得たと考える。

※活動の詳細は、ホームページで公開しております。QRコードを読み取り、ぜひご覧ください



(8) 中四国ブロック (ブロック長：尾崎美智氏)
正会員数 21名



① 年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加人数
2022年 7月9日(土)	会議	<ul style="list-style-type: none"> • 総会、理事会の報告 • 自己紹介 • 2022年度活動についての意見交換 	14人
	研修会	ブロック研修会 「臨床推論を活用した判断力トレーニング」	14人
8月6日(土)	※研究協力	地域向け研修会 「第1回訪問看護のための判断力トレーニング」	22人
9月3日(土)	※研究協力	地域向け研修会 「第2回訪問看護のための判断力トレーニング」	22人
10月15日(土)	※研究協力	地域向け研修会 「第3回訪問看護のための判断力トレーニング」	22人

② 活動を通して

今年度の中四国ブロック活動は「人材育成」をテーマとし、訪問看護認定看護師の経験や知識を次世代に継承するにはどのようにすればよいかを考え、内容を検討した。まずは、自分達が普段どのように考えて行動しているのかを見える化する必要があると考え、清水奈穂美先生の臨床推論を研修会で学び、その後先生と共に、新任訪問看護師を対象とした臨床推論の研修会を開催した。認定看護師はファシリテーターとして参加し、グループメンバーを支援した。

まず、会員に向けた研修会では、訪問看護師に必要な判断力について学び、思考プロセスを言語化していくトレーニングを行った。訪問看護の臨床推論では、医学的な判断だけでなく本人の思いに寄り沿う価値判断も必要であり、訪問看護ならではの難しさを感じた。また、思考プロセスを言語化することはとても難しく、悩みながらも自分自身の思考傾向を知ることができ、参加者は楽しく学ぶことができた。明日からの実践では、自分がどのように考えたのかを言語化し、スタッフの育成に活用していきたいと思える研修となった。

次に、清水奈穂美先生とともに地域の新任訪問看護師に向けた臨床推論研修会を、3回シリーズで開催した。訪問看護の現場では、複雑な状況において一人で判断しなければならないことが多く、特に新任看護師にとっては訪問看護の難しさを感じる場面だと思われる。今回は参加者を20名程度に絞り、ラダーレベルI、IIの新任訪問看護師でシリーズ全てに参加できる人が対象となった。グループワークでは全て同じメンバーとファシリテーターで行うという配慮がなされ、安心が保証された場で自分の考えを自由にしっかりと語ることができていた。参加者からは、「利用者の状況を点でみるのではなく、生き方そのものを支えるという思いを持ち、

色々な角度から推論していくことが大事であることを学んだ」「自分の考えを言葉にすることで、他者から支援をもらうことができるということがわかった」等々、とても前向きな意見がたくさん聞かれた。

今回ファシリテーターとして参加し、次世代を担う新任訪問看護師たちが楽しそうに学び成長する姿を見ることができ、人の育て方を体感し、人材育成の重要性を再認識することができた。また、認定看護師と同じ場で学べたことは、認定看護師に興味を持つきっかけとなり、よい広報の機会になったのではないかと思う。来年度も引き続き臨床推論を活用して人材育成を行いながら、将来認定看護師になりたいと思ってもらえるような活動を考えていきたいと考えている。

※活動の詳細は、ホームページで公開しております。QRコードを読み取り、ぜひご覧ください



(9) 九州ブロック (ブロック長：安部美保氏)

正会員数 23名



① 年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加人数
2022年 7月27日(水)	会議	・研修会・交流会の内容確認、日程、場所、講師の選択・参加対象者など決定	6人
8月3日(水)	会議	・今年度の研修会・ブロック交流会の企画詳細の検討	5人
8月18日(木)	会議	・研修会のテーマ決定とチラシ作成について検討	6人
9月9日(金)	会議	・研修会のチラシの最終確認 ・研修会第2部で行う「もしバナゲーム」の開催方法についての検討 ・次年度の活動計画について意見交換	5人
10月6日(木)	会議	・研修会の詳細の決定、研修会参加者の状況確認① ・「もしバナ」研修会の進め方についての検討	6人
10月25日(火)	会議	・研修会の詳細の決定、研修会参加者の状況② ・もしバナ研修会のリハーサル	6人
11月5日(土)	会議	・研修会の最終打ち合わせ ・研修会実地での最終確認	5人
	研修会	ブロック研修会 「これからの在宅看取りを考えよう～最期まで生きることを支える～」 第1部「在宅医療、新時代～これからの仲間たちとともに～」 第2部「最期まで生きることを支える…とはもしバナゲームをとおして考えよう」	14人

② 活動を通して

九州ブロックでは、ここ数年の課題として、1.コロナ感染症の流行以来、九州の会員が一堂に会する機会が無くなり、実際に顔を合わせての交流ができなくなった。2.会員が年々減少傾向にあり、新規会員の加入が無くなってきている。このような課題を打開したいと目標をたて、ブロック役員5人で川崎理事のアドバイスを受けながら活動してきた。

今年度のメイン行事は、11月に大分の会場からハイブリッド研修を開催したことである。研修の内容も吟味し、多くの会員に参加をしていただきたいと考えたが、残念ながら参加者は14人のみとなった。ぜひ会員になりたい、会員を継続したい、と思ってもらえるブロック活動へと盛り上げていくにはどのような取り組みが必要なのか、大きな課題が残っている。

※活動の詳細は、ホームページで公開しております。QRコードを読み取り、ぜひご覧ください



2. 総会及び同時開催研修会、交流会

(1) 総会及び同時開催研修会

毎年恒例ではあるが、総会後の研修会ということもあり、多くの会員が参加した。コロナ禍以降、研修会では感染症に関するテーマが多く見受けられているが、今だからこそ一度原点に立ち返る必要があるのではないか？との考えから、「ケアの質」を学び、自身の振り返りと今後を考える機会を作ることとした。



① 開催実績

日 時：2022年6月11日（土）13：30～16：00

開催方法：Zoom ミーティング

参加人数：102名

プログラム：

時間	プログラム
13：30～	『同時開催研修会』開会 情報提供「2021年度 訪問看護認定看護師 更新申請の情報提供」 中四国ブロック 久田玲子氏 (徳島大学大学院 医歯薬学研究部 看護リカレント教育センター)
	(10分間休憩)
14：00～	講義「ケアの質評価/改善 取組みの現状と今後について」 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 高齢者在宅長期ケア看護学分野 助教 角川由香氏 チャットによる質問受付・質疑応答
	まとめ
16：00	終了



～Zoom 入室受付の風景～



～司会を務める佐々木氏と田端氏～

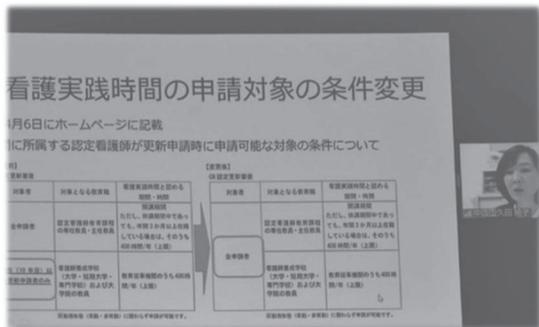
② 活動を通して

例年通り、訪問看護認定看護師更新申請のための情報提供を企画した。ポイントとなる研修会の紹介や実践報告書の作成方法など実践的具体的情報は、更新を控えている会員の皆さんに非常に役立つ内容であった。

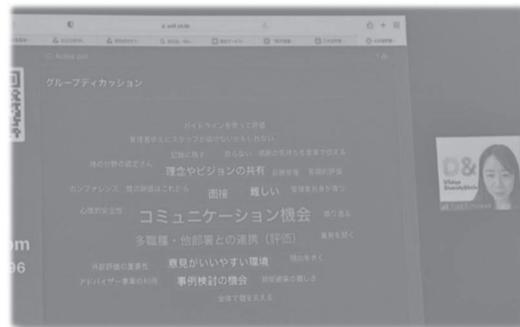
引き続き講演として、訪問看護ステーションのケアの質の保証・担保をどのようにしていくかを学ぶ機会として角川氏を講師として選定、当日は「ケアの質評価/改善、取組みの現状と今後について」をテーマに講演を頂いた。過去の研究結果や海外の訪問看護ステーションの質評価の方法などの情報提供をはじめ、選ばれるステーションになるためのケアの質の保証・担保をどのようにしていくかを学ぶ機会となった。ケアの質の評価は利用者確保やスタッフの人材育成、安定した経営などに結びつく重要な要素であり定期的にまた継続的に質の評価を実施していくことも重要であると学んだ。

研修会終了後のアンケートでは質評価の可視化をすることの重要性や、日々の自身の振り返りに役立った、今後の実践に役立つなどの感想が聞かれ、参考になった～とても参考になったとの回答は、情報提供が100%、講義が98%と高評価であった。

(※ホームページに掲載したレポートは、QRコードからご覧いただけます)



～久田氏による情報提供の様子～



～角川先生による講義の様子～



～Zoom 配信会場の様子～

(2) 交流会 2022

感染症対策としてオンラインでの開催を基本としている中、今回はハイブリッド開催できるのではないかと期待していたが、第8波を警戒し、今回もオンラインでの開催となった。

それでも、現場の臨場感を少しでも伝えようと、講師を配信会場へお招きして、交流会を配信した。



① 開催実績

日 時：2022年12月10日（土）13：00～16：00

開催方法：Zoom ミーティング

参加人数：76名

プログラム：

時間	プログラム
13：00～	『交流会 2022』開会
13：15～	講義「看多機のいろは ～看多機の現状と今求められている事～」 聖路加国際大学 臨床教授 日本ノーリフトケア協会理事 日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会 評議員 株式会社まちナース まちのナースステーション八千代統括所長 福田 裕子氏
	(10分間休憩)
14：25～	発表「松戸市の看多機の状況について」 前松戸市小多機看多機連絡協議会 会長 株式会社やさしい手 看多機かえりえ河原塚 管理者 一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会 理事 北関東ブロック 山崎 佳子氏
14：40～	チャットによる質問受付・質疑応答
14：50～	グループワーク
15：45～	発表
15：55～	まとめ
16：00	終了



～グループワークの様子～

② 活動を通して

高齢、多死社会を迎えるなか看多機への期待は大きいですが、普及には地域差があり認知度も高いとは言えない現状がある。そのため訪問看護師の学習ニーズの高まりもあり、看多機の理解を深めるためにこの研修を企画することに至った。今回千葉県で先駆的に取り組んでおられるお二人を招いて、それぞれの地域での看多機の現状と今後求められる課題などについて講演をいただいた。福田氏より、「看多機のいろは」と題して、開設するためのノウハウや看多機のメリット、デメリット、看多機に求められていることの情報いただいた。また山崎氏からは松戸市の現状をテーマに連絡協議会の設立経緯や研修会の企画、アンケート結果の情報提供をいただいた。講演のあと、グループワークを実施。活発にディスカッションが行われた。研修会終了後のアンケートでは、「看多機の制度や開設までの準備がよくわかった」、「自施設の看護・介護を振り返る機会となった」、「アンケート結果の情報提供からは利用する側の意見を知ることが出来た」などの感想が聞かれ、今回参加した100%の方が参考になった～とても参考になったとの結果が得られた。

(※ホームページに掲載したレポートは、QRコードからご覧いただけます)



～ご講義いただいた福田先生～



～ご発表いただいた山崎理事～

3. 訪問看護事業所の運営及び多機能化へのコンサルテーション活動

活動名：ミニ講座「安定したステーションの運営を目指して」&座談会

メンバー：8名

田川章江氏（理事）・伊藤みほ子氏（理事）・野崎加世子氏（監事）

石原英子氏（東海北陸ブロック）・小川綾乃氏（関東ブロック）・菅崎仁美氏（中四国ブロック）

田中紀子氏（南関東ブロック）・新美由美子氏（東海北陸ブロック）

(1) 年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加人数
2022年 11月1日(火)	第1回運営会議	・顔合わせ及び役割分担の決定 ・活動の概要検討	8人
2023年 1月12日(木)	第2回運営会議	・ミニ講座&座談会の具体的な内容の検討	7人
1月29日(日)	ミニ講座&座談会の開催		28人
	第3回運営会議	・ミニ講座&座談会の振り返り	8人

(2) ミニ講座「安定したステーションの運営を目指して」&座談会の開催

日時：2023年1月29日（日）9：00～12：00

開催方法：Zoom ミーティング

参加人数：28名

プログラム：

時間	プログラム
9：00～	開会・オリエンテーション
9：10	ミニ講座「安定したステーションの運営を目指して」 ①管理者として大切にしていること 小川綾乃氏 ②人材確保するための工夫 新美由美子氏
10：10	休憩
10：20	座談会
11：20	グループ発表
11：40	本日のまとめ
11：50	アンケート説明
12：00	閉会

(3) 活動を通して

現在、訪問看護ステーションを開業しても続かず閉鎖、休止するステーションも多い。訪問看護経験のない管理者も増え、制度や経営など様々な悩みを抱えても相談する場所がないという声を聞かれる。

それを踏まえ今回は、全国の訪問看護ステーション管理者や次期管理者を対象に、ミニ講座(テーマ:安定したステーションの運営を目指して)+座談会のオンライン開催を企画した。協議会の会員へ当活動への参加を募集したところ、5名の方たちが自主的に手上げされ、役員を含め8名で運営した。

当日は28名に参加していただくことができた。ミニ講座では自身の課題が明らかになり、座談会で活発に話も進んだ。参加者アンケートの結果から高評価をいただき、満足度の高い研修となった。

今回の活動を通し、様々な要素はあるが管理者が人材の確保、育成、経営安定についてなど悩むところは同じだということ、管理者は孤独になりやすく相談する場がないことを改め感じた。参加者からも訪問看護認定看護師や在宅ケア認定看護師への期待も聞かれ、今後も地域での活動を継続していく必要性を感じた。

このほか、開催後の運営会議では、個別相談の窓口を協議会としてどうしていくか、認定看護師や、在宅ケア認定看護師がどうつながり活動していくかが課題として挙げられた。

(※ホームページに掲載したレポートは、QRコードからご覧いただけます)

訪問看護認定看護師によるコンサルテーション活動
素敵な訪問看護ステーションになるためのノウハウ教えます!

ミニ講座「安定したステーションの運営をめざして」

講師1:訪問看護認定看護師 小川 綾乃
～ 管理者として大切にしていること～

講師2:訪問看護認定看護師 新美 由美子
～ 人材確保するための工夫～

座談会

※テーマ別に行います

- ① 経営・運営
- ② 人材確保・育成
- ③ 多機能化・大規模化

・・・訪問看護管理者の「悩み」を、一緒に考えませんか?・・・

訪問看護事業所の安定した運営を行うために、「人材の確保・育成」、「利用者の確保」、「多職種との連携」など、管理者には多くのことを求められています。開設したばかり、管理者の経験が浅い、相談できる場がないなどのことから、管理者一人で悩んでいませんか?
明日からの訪問看護が楽しく実践・管理できるよう、訪問看護認定看護師と一緒に語り、考えてみましょう!

2023年1月29日(日) 9:00~12:00

開催方法: Web開催
参加人数: 30名
参加費: 1,000円
応募要件: 訪問看護管理者または次期管理者
応募方法: QRコードからお申し込みください

*お申込期限 12月23日(金)
*参加が決まった方には決定通知をメールでお知らせ致します

お問い合わせ: 一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会
TEL: 03-5778-7008 MAIL: kyogikai@jvnf.or.jp
担当認定看護師: 野崎加世子 田川章江 伊藤みほ子



ミニ講座「安定したステーションの運営を目指して」 & 座談会 参加者アンケート結果

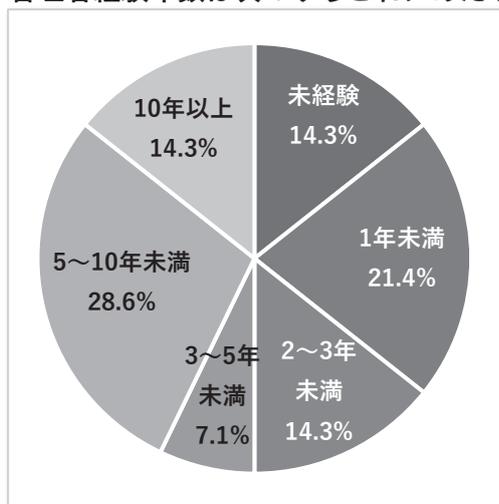
開催日時：2023年1月29日（日） 9:00～12:00

参加人数：28名（うち27名座談会参加）

回答件数：28件/回答率100%（回答0%は非表示）

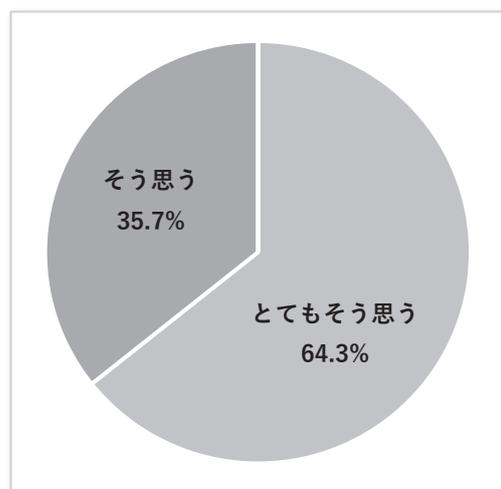
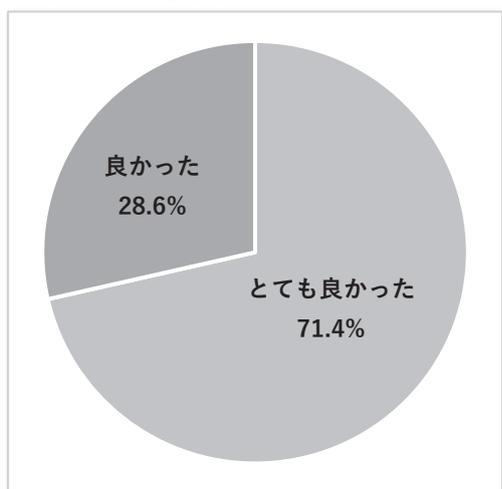
1. ご回答頂く方についてお伺いします

1) 管理者経験年数は次のうちどれにあたりますか？

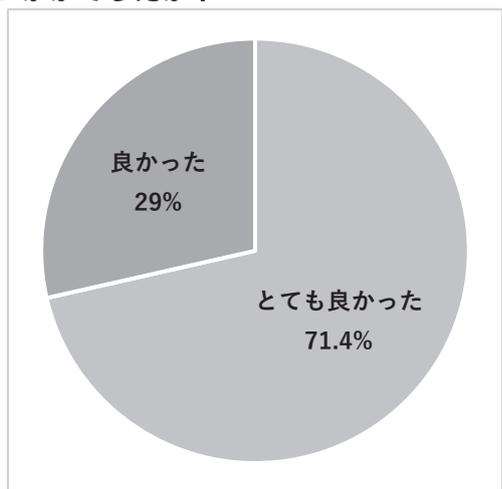


2. ミニ講座「安定したステーションの運営を目指して」についてお伺いします

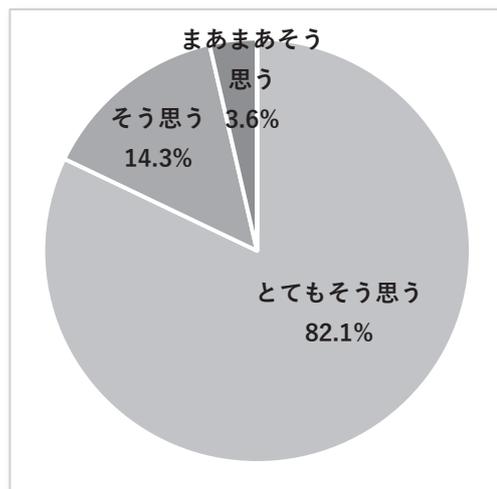
- 1) 講義1「管理者として大切にしていること」は 2) 講義1の内容は、今後の活動に活かせますか？
いかがでしたか？



3) 講義2「人材確保するための工夫」は
いかがでしたか？

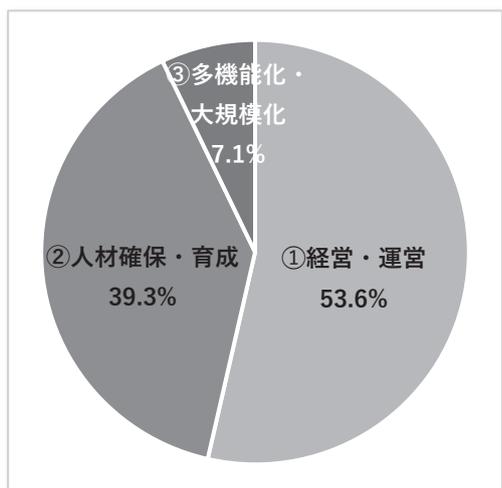


4) 講義2の内容は、今後の活動に活かされますか？

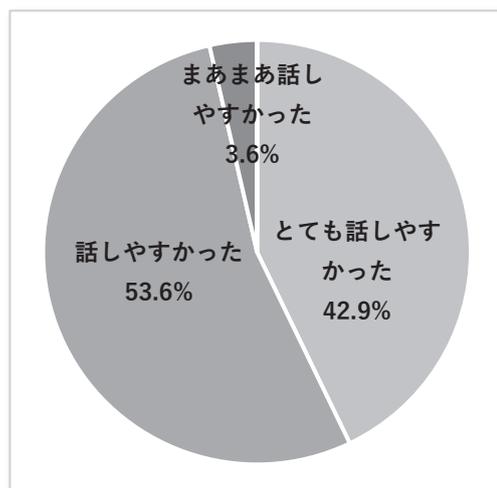


3. 座談会についてお伺いします

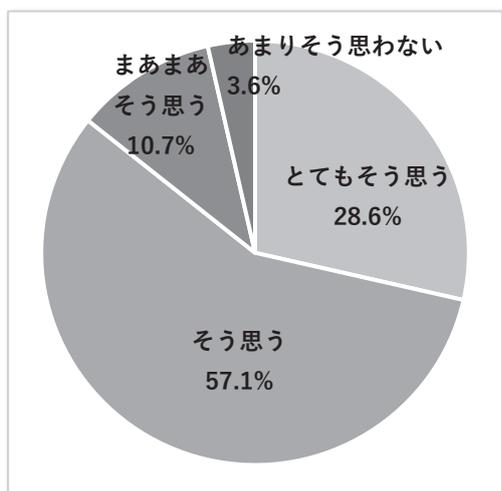
1) 参加したテーマは、次のうちどれですか？



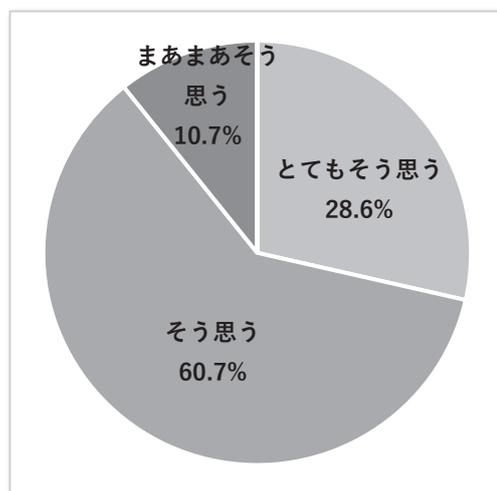
2) 座談会では話しやすかったですか？



3) 問題や課題を整理することができましたか？

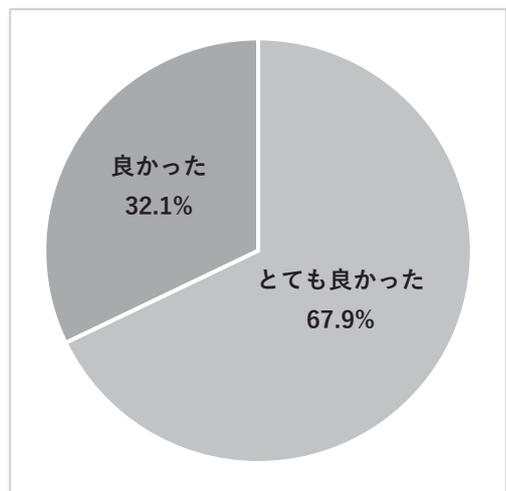


4) 問題や課題を解決する方向性が見えましたか？



4. 今回の企画全般についてお伺いします

1) 今回のミニ講座&座談会に参加してどうでしたか？

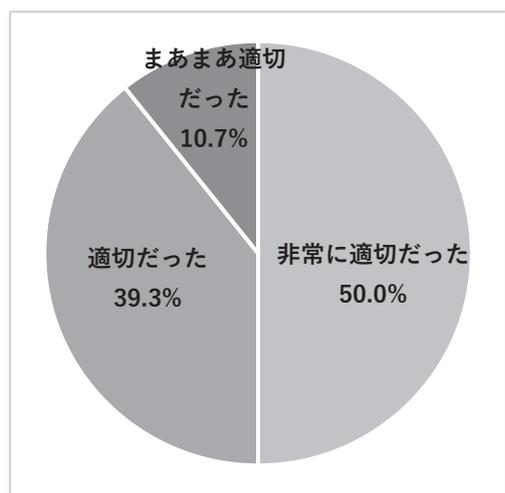


◎今回参加してのご感想やご意見がございましたら、ぜひお聞かせください

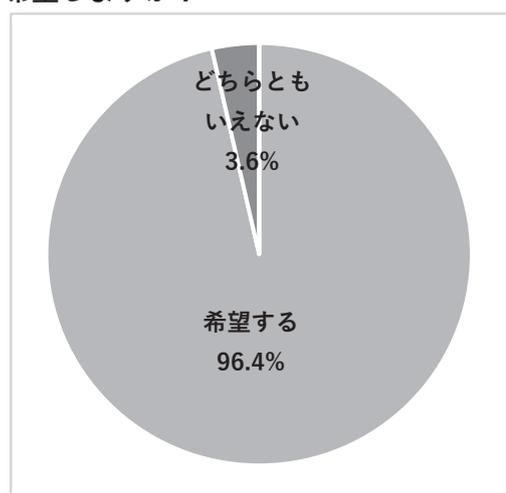
- 新たに面談時のアンケートなど、すぐに取り組めることがあり、学びになりました。
- 管理者同士が話せる場がもっと増えると嬉しい。
- 管理者の方の悩みを共有することで、頑張ろうという気持ちになれた。座学ではでの学びは実践可能な内容であり、とても良かった。
- 色々な意見が聞けた。研修後でも繋がりがもてると良いと思いました。
- 具体的な内容で講義があり、また座談会で詳しく話が聞けました。参加しやすい雰囲気、発表のストレスがなくとても良かったです。
- 小川さんの話が衝撃的でした。よくぞご無事でここまで来られたな、と感服いたしました。
- みんな同じことで悩んでおり、自分だけではないと思え、モチベーションに繋がった。
- 他ステーションの問題や経験豊富な方の話を聞いてとても勉強になった。
- 現場の声が聞く事ができ良かったです。
- 管理者、訪問看護の両方が初めてのため、色々な方の意見を聞くことができとても良かったです。今後も、この様な会を計画していただきたいと思います。
- 現状が見えて大変勉強になりましたし、頑張れる気持ちになりました。
- 管理で苦労していることや、具体的な解決法を聞くことができました。利用者さんにも、スタッフにも丁寧に対応していくことや、自分がどのようにしてほしいかをきちんと伝える大切さを感じました。
- 同じ様な悩みなどが共有でき解決策を見つけることが出来ました。ありがとうございました。

- 同じお気持ちを持たれる方々なので、考えてみえることが似ていました。野崎さんが言われたように、自分だけではない。そう思う研修でした。このような研修に参加することで、自分のメンタルケアもできるので、また機会があれば参加したいと思います。全国の方々と繋がることができて良かったです。あっという間の3時間でした。ありがとうございました。
- 今まで地域の訪問看護連絡会はありましたが、管理者としての課題や思いを話し合う場がなかったので、非常に有意義でした。皆さん同じように苦勞されていることも分かりましたし、アイデアもいただくことができました。今後の管理者としての働き方について、良い刺激を頂きました。今日の学びを管理に活かし、ステーションとしての看護の質を高めていきたいと思います。有難うございました。
- コロナ禍で管理者研修や管理者同士集まる機会も減り、他のステーションの管理者とコミュニケーションを撮る機会も減っています。同じ悩みを共有でき、工夫されている方法など聞かせていただき参考にしていきたいと思いました。貴重な機会となりありがとうございました。

2) 参加費は適切でしたか？



3) このようなイベントの開催を今後も希望しますか？



4) 訪問看護認定看護師に期待することなどお聞かせください

- 認定看護師のいない職場に出向いた意見や、活動、相談窓口などがあると嬉しい
- 地域のネットワーク作り
- 訪問看護師の質の向上に現場にもたくさん出てきていただきたいです。
- 養成課程の施設を増やしてほしい
- 今後の活動等
- 具体的に何ができるのかわからない
- 訪問看護の魅力をもっと広めてほしいです。

- 色々な認定看護師とコラボしながら取り組めたら良いですね。
- 訪問看護の質をあげていくために必要な研修をお願いします。
- 今後も、色んな場面で助言を頂けると嬉しいです。ありがとうございました。
- スタッフの育成については今後もアドバイスいただきたいです。
- ステーションに認定資格がある方が、多数いるところはないと思います。認定看護師同士の横のつながりをひろげて、活動の場をひろげて頂きたいです。これからの訪問看護の先取り、工夫などご助言頂き、訪問看護に活力を生んで頂きたいです。どうぞよろしくお願いします。

【管理者経験別集計一覧】（回答0%は非表示）

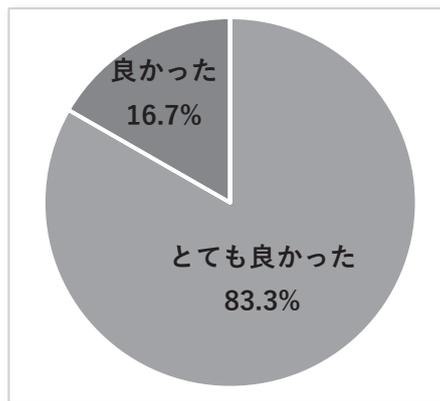
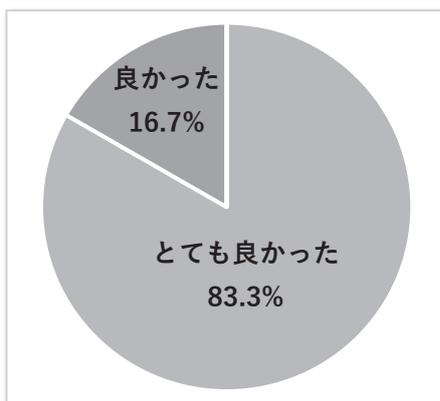
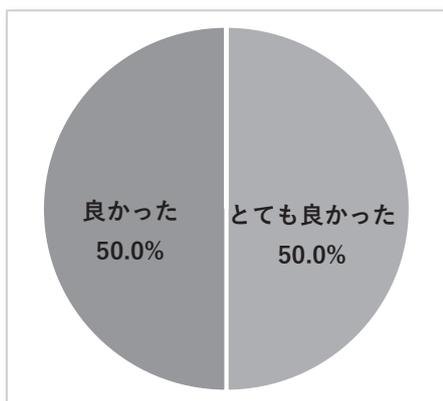
○カテゴリー

①年数の浅いグループ（未経験、1年未満）、②中堅グループ（2～3年未満、3～5年未満）、③ベテラングループ（5～10年未満、10年以上）の3つのカテゴリーに分け、データを比較する。

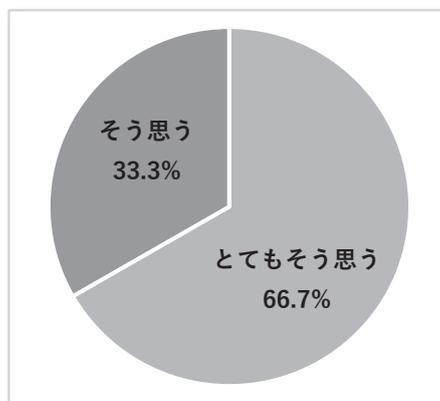
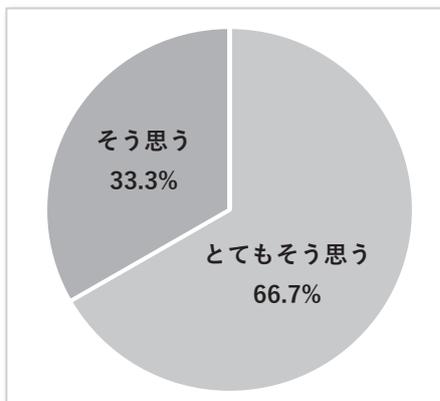
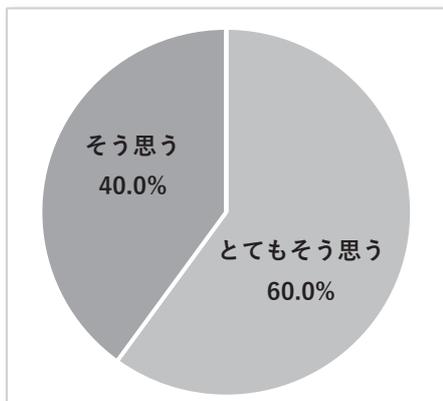
ミニ講座「安定したステーションの運営を目指して」についてお伺いします

1) 講義1「管理者として大切にしていること」はいかがでしたか？

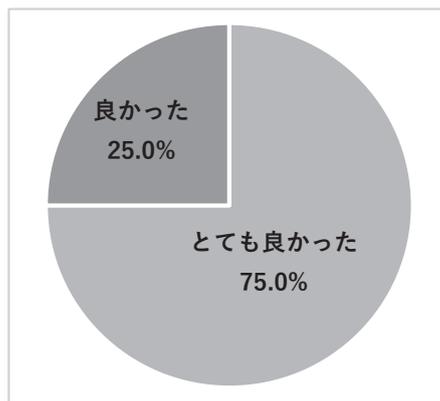
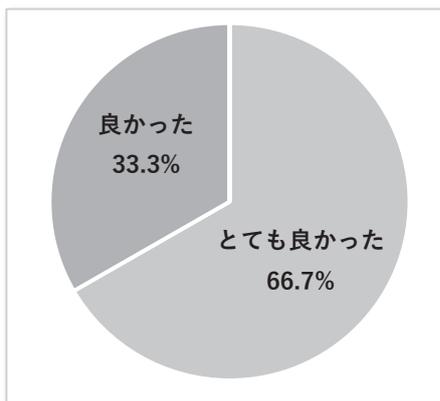
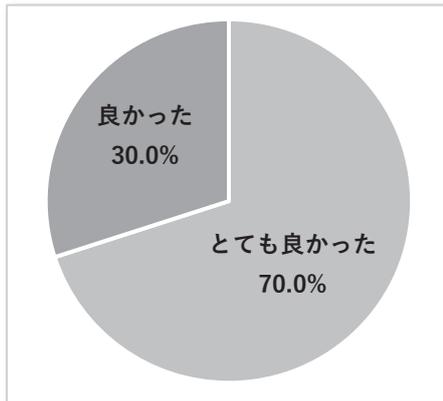
①未経験～1年未満（n=10） / ②2～5年未満（n=6） / ③5年以上（n=12）



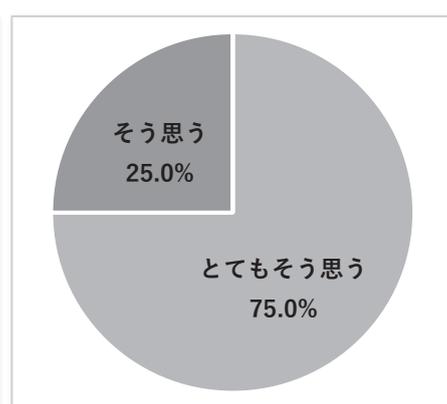
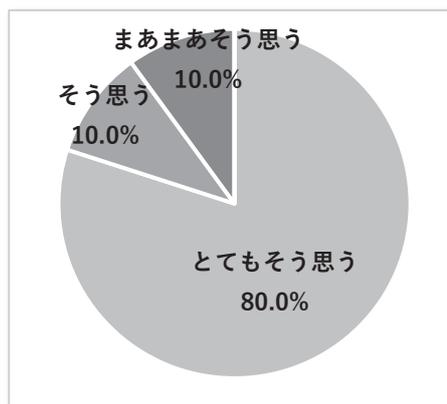
2) 講義1の内容は、今後の活動に活かせますか？



3) 講義2「人材確保するための工夫」はいかがでしたか？

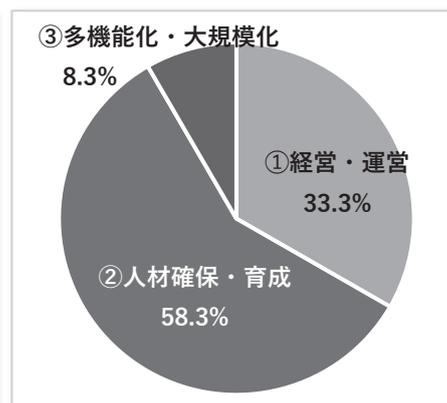
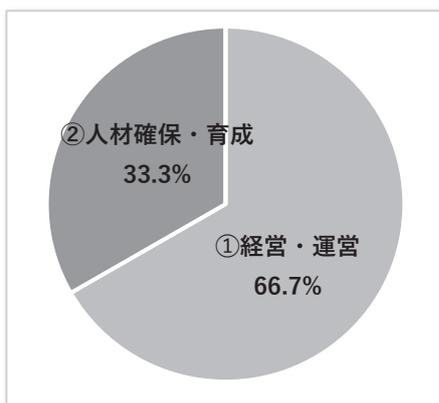
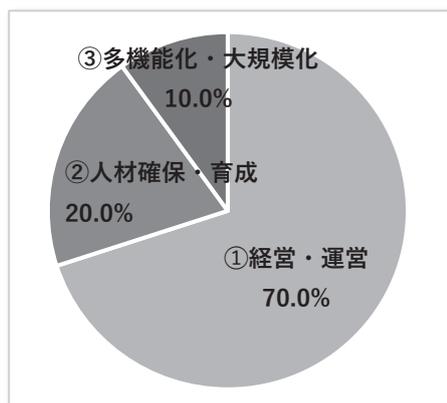


4) 講義2の内容は、今後の活動に活かされますか？

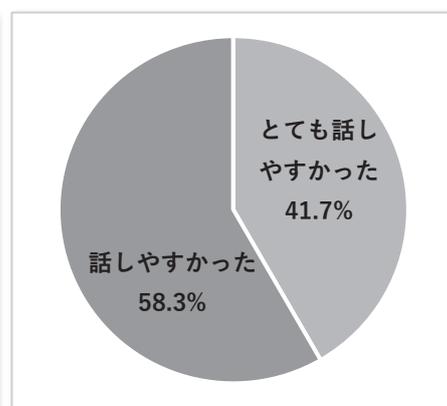
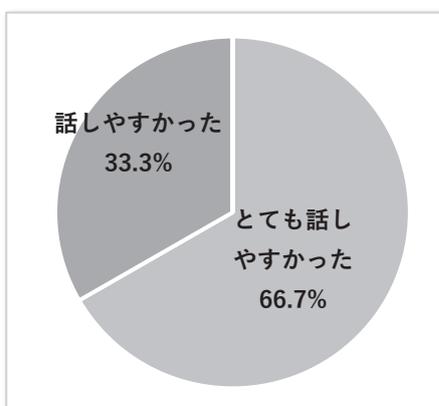
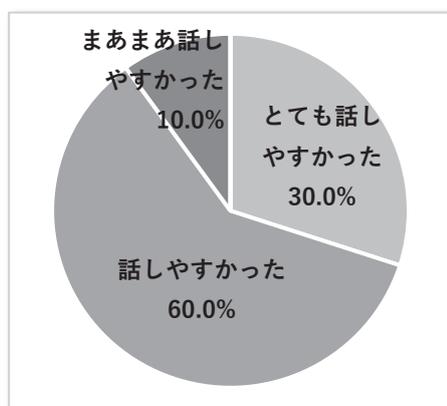


座談会についてお伺いします

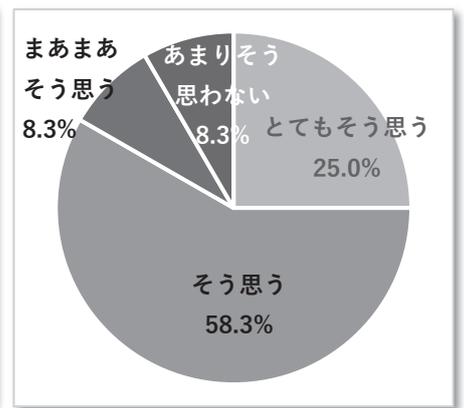
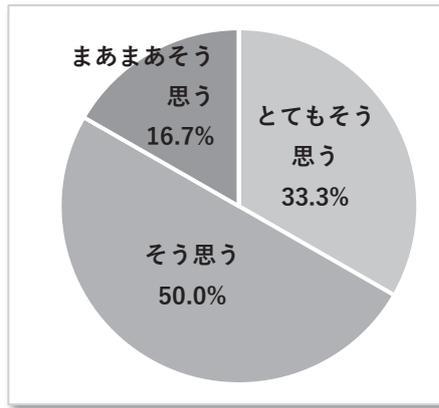
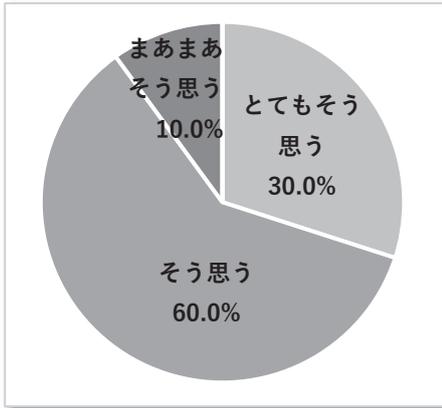
1) 参加したテーマは、次のうちどれですか？



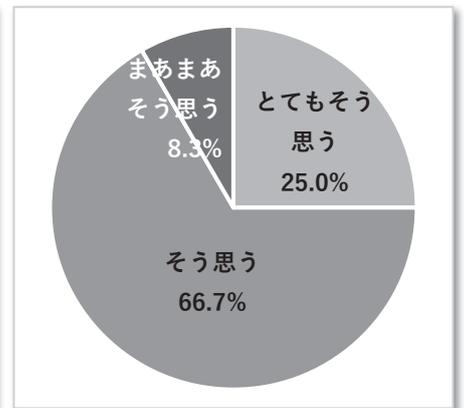
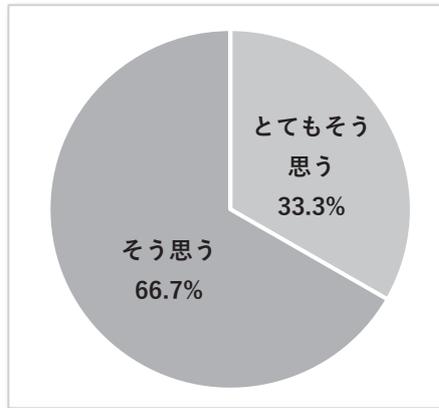
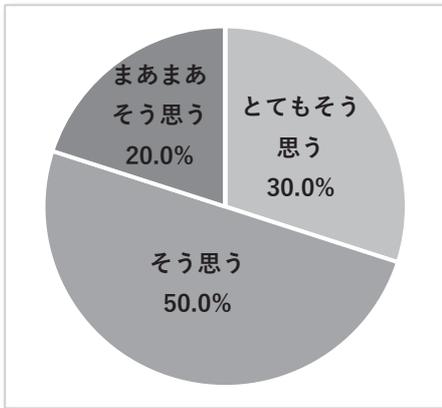
2) 座談会では話しやすかったですか？



3) 問題や課題を整理することができましたか？

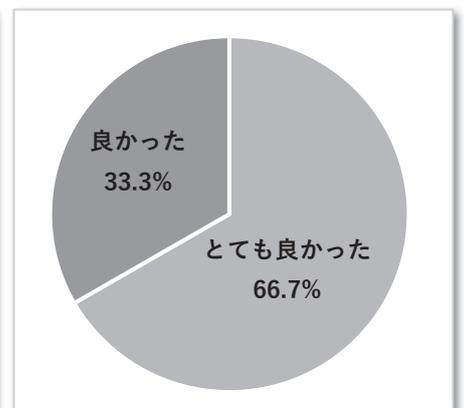
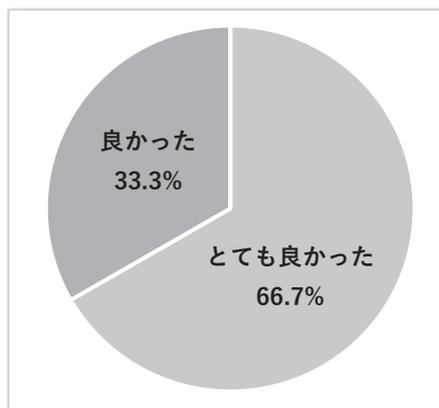
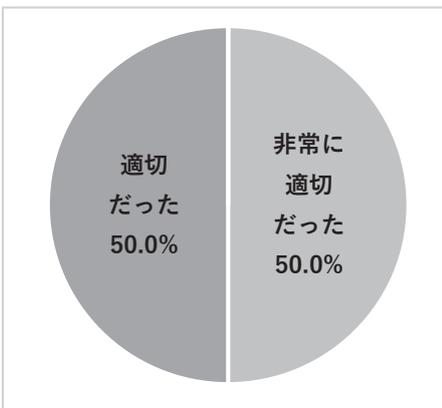


4) 問題や課題を解決する方向性が見えましたか？

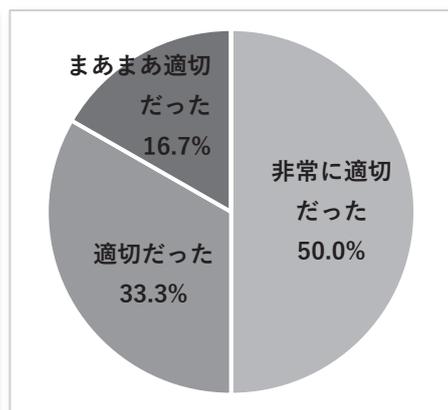
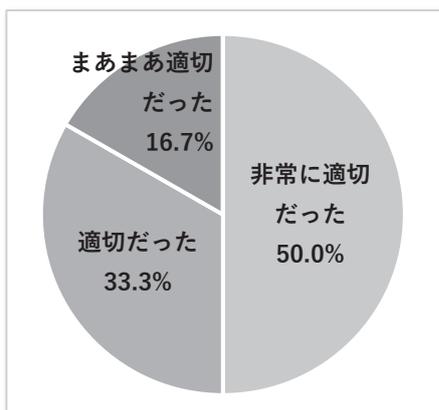
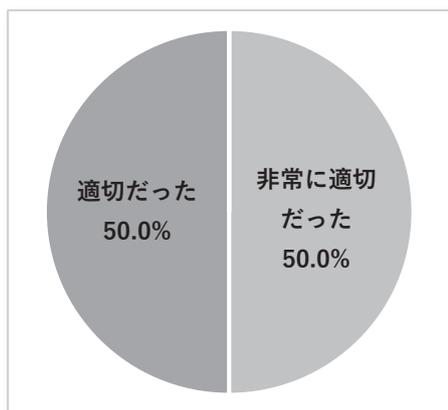


今回の企画全般についてお伺いします

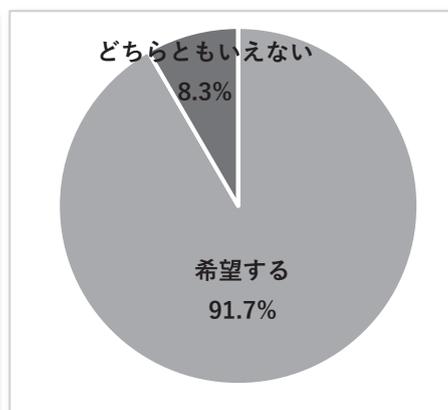
1) 今回のミニ講座&座談会に参加してどうでしたか？



2) 参加費は適切でしたか？



3) このようなイベントの開催を今後も希望しますか？



以上

4. 報酬改定に向けた活動

担当：平野智子氏（理事）

協力：大橋奈美氏（理事）・廣川直美氏（理事）岡本双美子氏（近畿ブロック・賛助会員）

（1）活動の目的

「診療報酬」「介護報酬」が同時改定される 2024 年度に向けて、協議会から要望書の提出を計画している。2021 年度は、協議会会員を対象に「ダブル改定に向けて、訪問看護認定看護師が所属する事業所への加算を要望するための調査・研究」を実施した。本年度はその調査結果を元に、何に焦点を当てるかを検討して要望書案の作成を行い、併せて、提出計画を立てることとした。

（2）年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加人数
2022 年 6 月 30 日(木)	運営会議	・前年度からの引継ぎ事項の確認 ・今期活動内容の確認と役割分担の決定 ・その他意見交換	5 人
2023 年 1 月 15 日(日)	作成作業	・要望書案の作成 ・追加資料の回収及び取りまとめ	5 人
1 月 31 日(火)	作成作業	・要望書素案の提示	5 人

第3章 事業の評価

- 1 ブロック活動
- 2 総会及び同時開催研修会、交流会2022
- 3 訪問看護事業所の運営及び多機能化へのコンサルテーション活動
- 4 報酬改定に向けた活動

1. ブロック活動

ブロック活動は、認定看護師の資質向上や培った能力で地域に貢献するための活動などを企画・運営すること、また会員同士の情報交換のための交流会等を開催することを目指し取り組んでいる。

2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響が続き活動はWebにも慣れ、対面できないことの課題や利点を様々な工夫をすることでより効果的に活動できたと思われる。

活動内容は、9ブロックそれぞれの会員数、地域のニーズによりブロック会議、研修会、交流会の回数、内容、進め方等ブロックの状況に合わせて創意工夫されたものであった。どのブロックも研修会・交流会参加者の満足度は高く、訪問看護認定看護師および在宅ケア認定看護師としての活動に活かされていると評価できる。しかし、参加者の人数が少なかった、研修会の広報不足、会員数の伸び悩み・退会等ブロックそれぞれの課題もあり、ブロック同士の情報交換をしながら検討していきたいと考える。

ブロック活動の運営については、年2回の理事ブロック長合同会議とブロック活動実施ガイドラインだけを頼りにブロック長が運営している現状であるが、運営方法について各ブロックの情報共有と問題点等を協議するためブロック長会議を開催したことで、様々な意見交換と提案があった。そこで出た、

- ①ブロック別の会員人数の差異により、役員の選出や会員確保等活動が困難なブロックを考慮した活動について
- ②「自己研鑽」のための活動という協議会活動の主旨について

この2点に関して検討し、来年度はさらに活発にかつスムーズにブロック活動ができるようにしていきたい。

担当役員 理事 杉本 由紀子
 理事 川崎 幸栄子

2. 総会及び同時開催研修会、交流会 2022

総会及び同時開催研修会、交流会 2022 共に、本年度も Zoom を利用したオンライン開催となった。

6月11日に開催した総会及び同時開催研修会では102名の参加があった。研修会では例年通り、①訪問看護認定看護師更新申請のための情報提供 ②訪問看護ステーションのケアの質評価/改善をテーマに講演を開催した。講演では、地域で選ばれるステーションになるためのケアの質の保証・担保をどのようにしていくかを学ぶ機会となった。質評価を可視化することや、定期的にまた継続的に質の評価を実施していくことも重要であると学んだ。

12月10日の交流会 2022 では看多機をテーマに研修会を開催した。高齢、多死社会を迎える中で看多機への期待度は高く、看多機の制度や開設時のノウハウを学び、看多機の理解を深める機会となった。またアンケート結果などからも利用する側の意見を知らることができ、自施設の看護・介護を振り返る機会にもなった。

両日共に研修会、交流会終了後のアンケートからほぼ100%の方より参考になったとの高評価が得られており、訪問看護認定看護師および在宅ケア認定看護師としての自己研鑽、そして、訪問看護の質の向上に繋がる内容であったと考える。

担当役員 理事 山崎 佳子
理事 松下 容子

3. 訪問看護事業所の運営及び多機能化へのコンサルテーション活動

訪問看護認定看護師および在宅ケア認定看護師が地域の事業所や訪問看護師、多職種の方々の相談に応じ支援することは地域貢献の 1 つであり、訪問看護認定看護師および在宅ケア認定看護師の良さを知っていただく機会となる。

この活動を通し地域、行政等から必要と認識していただけるようにすることは、当事業を行う根底の目的である。

今年度の活動対象地域は各ブロックからの手上げがなかったこと、一方でオンラインでの研修会にも慣れきていることもあり、全国を対象にミニ講座+座談会を開催することとした。会員に呼びかけ、ファシリテーターとして自主的に参加していただいた 5 名はほぼ初対面のメンバー同士だったが、悩める管理者さんに力になりたいという思いは一つで、準備、運営はスムーズに実施できた。研修会参加希望者は全国からあり、最終 28 名と目標人数ほぼ達成している。ミニ講座は「安定したステーション運営を目指して」をテーマとし、運営メンバーのうち 2 名の方に実際の具体的な内容を発表していただいた。ミニ講座を聞いた参加者は自己の課題が明確になり座談会の導入がスムーズで、緊張感少なく活発に進められていた。アンケート結果からも満足度の高い結果となった。

管理者の持つ安定した運営をしていきたいという思いは同じで、様々な要素はあるが人材確保・育成、経営の安定についてと悩みは一緒であることがわかった。

認定看護師として地域の訪問看護ステーションの運営、質の向上、制度の理解など一緒に考え、思いを表出できる場を提供する取り組みを継続していきたい。

担当役員	監事	野崎	加世子
	理事	伊藤	みほ子
	理事	田川	章江

4. 報酬改定に向けた活動

2024年度の医療保険・介護保険の同時制度改定に向け、当協議会員の意見を集約した要望書を2023年6月に提出できるように準備を進めている。

なお、要望書の作成においては、2018年から2021年度にかけて当協議会員に向けて行われたアンケートおよび調査結果をもとに、訪問看護認定看護師および在宅ケア認定看護師の視点としての制度改定への要望書になるよう検討している。

具体的には、これまで実施した調査アンケートにおいて、訪問看護認定看護師および在宅ケア認定看護師は非資格取得訪問看護師と比較し、多職種への連携、医療機関・地域の他機関への働きかけをより積極的に行っていることや、医療依存度の高いがん終末期利用者や神経難病の利用者を積極的に受け入れていることが示されている。しかしながら、現在の報酬体系において、訪問看護認定看護師や在宅ケア認定看護師、在宅看護専門看護師が積極的に行なっている、難病等の医療依存度の高い利用者などの重症者への実践、地域連携の中での相談機能への十分な評価がなされていない現状がありこの点を踏まえ、以下4点について趣旨と根拠を示すデータをまとめ、当協議会からの要望として提出する予定である。

- ① 訪問看護認定看護師、在宅ケア認定看護師、在宅看護専門看護師のいる事業所への評価
- ② 医療依存度の高い利用者（在宅人工呼吸器装着者・ターミナル期・難病 難治性の高い創状態にある利用者等）への評価の見直し
- ③ 地域包括ケアシステムにおける連携・相談への評価
- ④ 退院支援の評価

担当役員 理事 平野 智子

別添資料

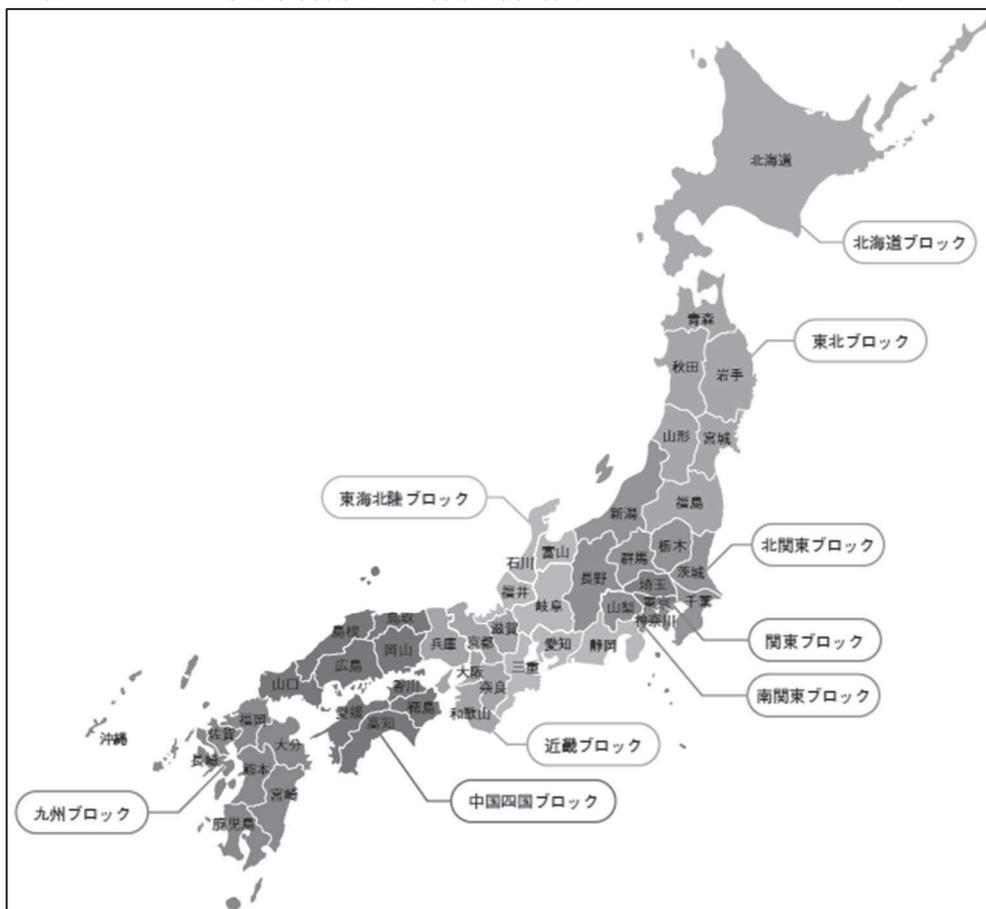
- 1 会員数及び9ブロック図
- 2 組織について
- 3 理事会等及び総会の開催
- 4 会員活動調査集計結果（一部抜粋）

訪問看護認定看護師数・在宅ケア認定看護師数（日本看護協会 認定部資料）

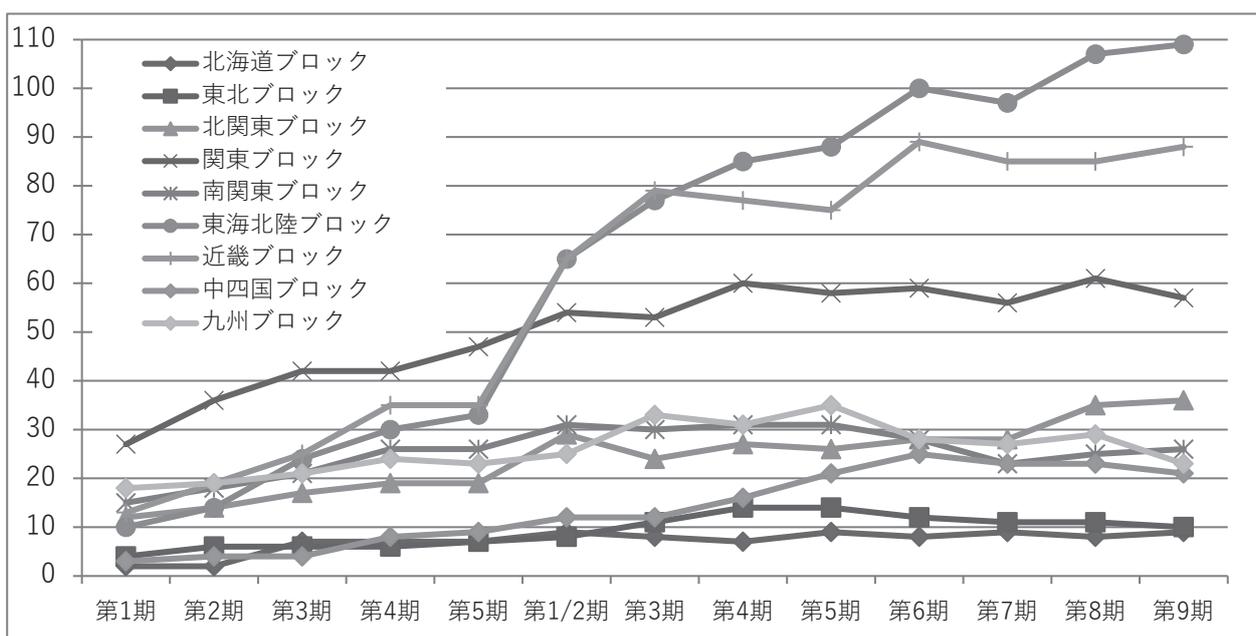
1. 会員数及び9ブロック図

(1) 2022年度会員数 (2023年3月5日現在)
 正会員 380名 ・ 賛助会員 10名

(2) 一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会における9ブロック区分図

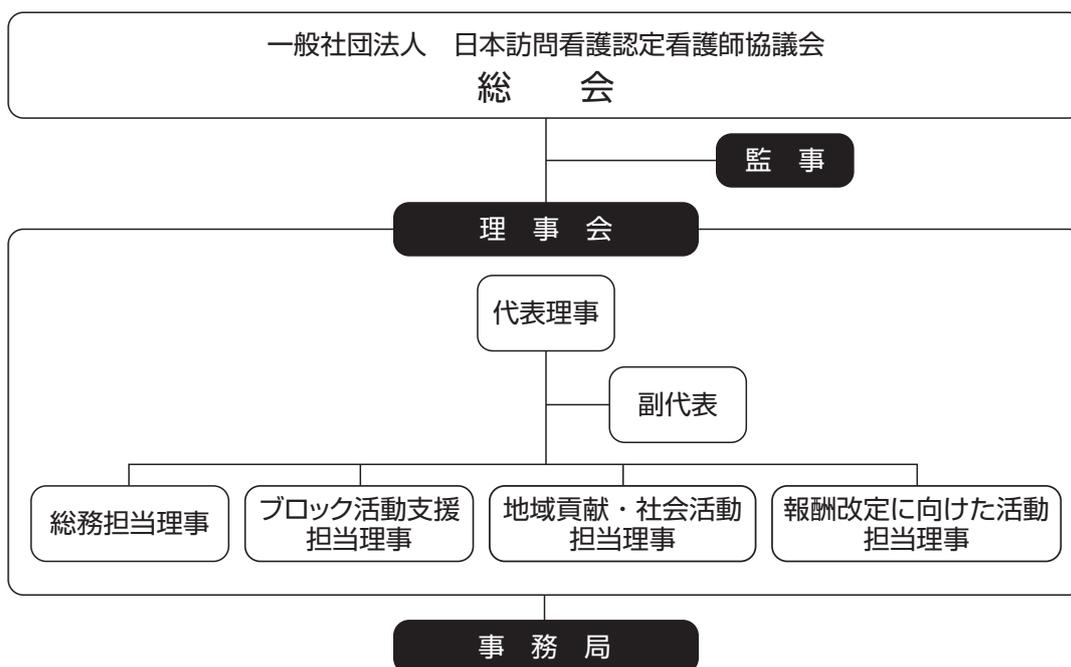


(3) ブロック別会員数の推移



2. 組織について

(1) 一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会における執行機関係統図



(2) 理事会・事務局名簿 (ブロック順・敬称略)

[理事]

代表	大橋 奈美	医療法人ハートフリーやすらぎ 常務理事兼統括管理責任者 訪問看護ステーションハートフリーやすらぎ
副代表	廣川 直美	ナースステーション東京 目黒支店 所長
	田川 章江	社会医療法人孝仁会 訪問看護ステーションはまなす
	戸崎 亜紀子	公益財団法人 星総合病院 法人看護部
	山崎 佳子	株式会社 やさしい手 看多機かえりえ河原塚 管理者
	平野 智子	特定非営利活動法人 訪問看護ステーションコスモス 所長
	伊藤 みほ子	公益社団法人 長野県看護協会 常務理事
	松下 容子	みんなのかかりつけ訪問看護ステーション四日市 所長
	杉本 由起子	学校法人 河原学園 人間環境大学 松山看護学部
	川崎 幸栄子	公益社団法人 いちちょうの樹 鹿児島看護専門学校 専任教員
[監事]	野崎 加世子	社団法人 岐阜県看護協会 訪問看護ステーション 管理者
[事務局]	公益財団法人	日本訪問看護財団 常務理事 平原 優美 村田 由香里

3. 理事会等及び総会の開催

(1) 理事会

事業推進の為、全3回開催した。今期もコロナ禍のため、全会議 Web での開催となった。

第1回	2022年5月14日(土)	Zoomによるオンライン開催
臨時	2022年6月11日(土)	Zoomと会場をつないだハイブリッド開催
第2回	2022年9月10日(土)	Zoomによるオンライン開催
第3回	2023年3月4日(土)	Zoomによるオンライン開催

(2) 理事・ブロック長合同会議

ブロック活動の活性化を図ることを目的とし、全2回開催した。

第1回	2022年6月11日(土)	Zoomと会場をつないだハイブリッド開催
第2回	2023年3月4日(土)	Zoomによるオンライン開催

この他、2023年2月20日(日)に、ブロック活動支援担当理事とブロック長による会議を開催した。

(3) 第9期 定時総会の開催

1) 2022年度(第9期) 一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会 総会

日 時：2022年6月11日(土) 13:00~13:30

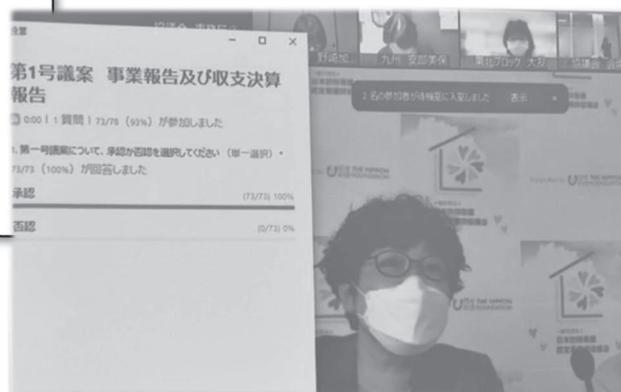
会 場：公益財団法人 日本訪問看護財団より配信 (Zoom Meeting)

出席者：231名 (内訳：本人出席者84名 委任状147名)

一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会	
第9期(2022年)	
定 時 総 会 次 第	
1. 開会	
2. 議長及び議事録署名人の選出	
3. 議案	
第1号議案	第8期(2021年度)事業報告及び収支決算報告 ・監査報告承認の件
第2号議案	第9期(2022年度) 事業計画(案)
第3号議案	第9期(2022年度) 収支予算(案)
第4号議案	任期満了に伴う役員改選(案)の件
第5号議案	定款一部変更及び追加(案)の件
4. 議長解任	
5. その他	
6. 閉会	

本年度も感染対策として、Zoomを利用したバーチャル出席型での開催となった。

Zoomの投票機能を利用した採決やチャットによる意見表明にも慣れてきたことから、主催者側も参加者側もストレスなく議事を進めることができた。



～議案採決を行う大橋代表～

4. 会員活動調査集計結果

本協議会ではブロック活動の他に地域貢献活動など、協議会全体として取り組む活動がある。また、近年では、他団体からの協力依頼も頂くようになってきている。理事会では、このような活動を企画・運営する人員を会員から選出しているが、その時に活用するのが、会員活動調査である。毎年の年度末に会員へ調査の協力依頼を行い、そのデータを元に次年度の活動メンバー選出に活用している。

一方、この調査から、協議会会員の活動の多様性を見ることも出来たため、それを示せるデータを報告する。

「協議会会員の活動調査 2022 年度版」より

調査時期：2022 年 2 月 5 日～2023 年 1 月 31 日

調査対象：当協議会 正会員 384 名(2021 年度会員数)

調査方法：Google フォームによるアンケート方式

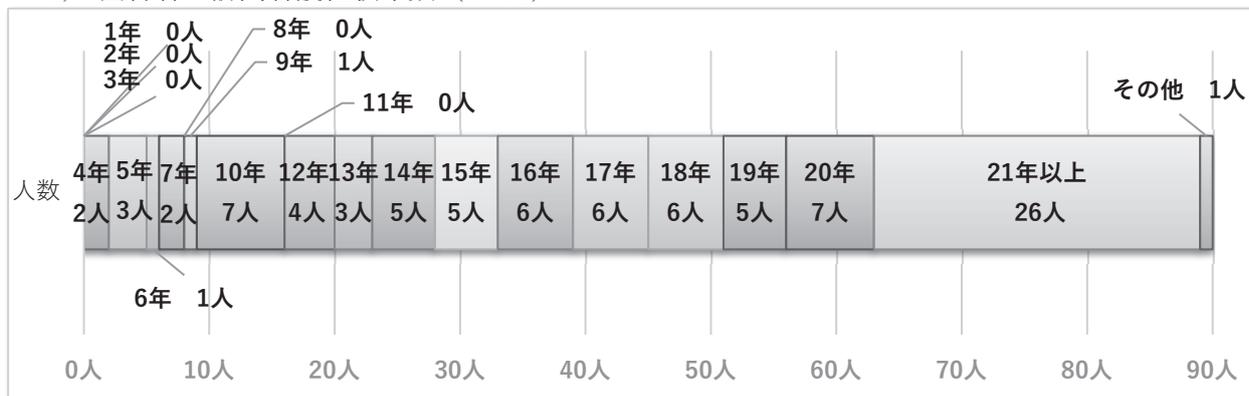
回答数：90 名（回収率 23.4%）

●回答者の情報

1) 回答者の認定取得年 (n=90)

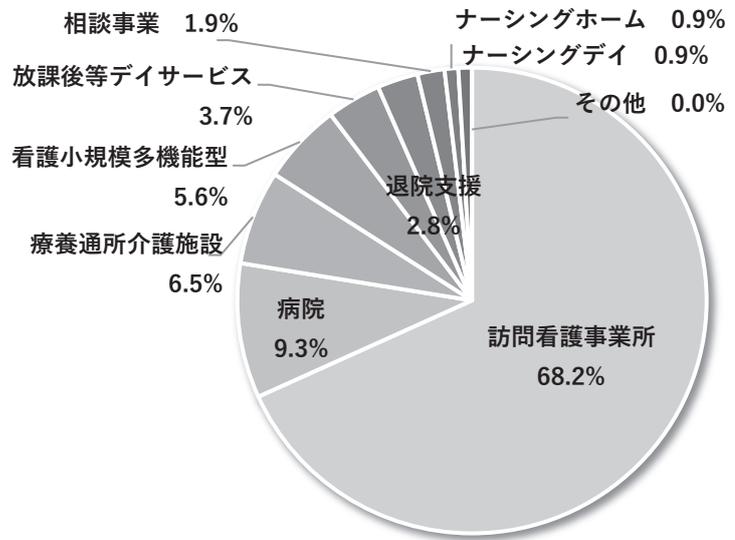


2) 回答者の訪問看護経験年数 (n=90)



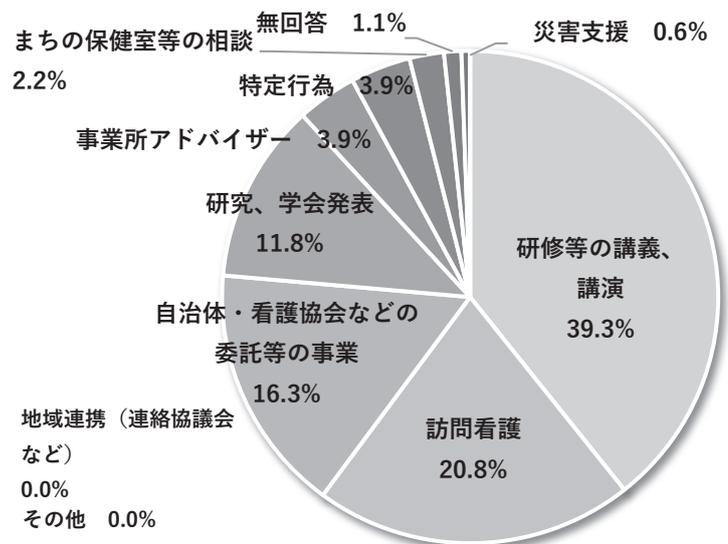
3) 回答者の所属先事業形態 (n=90 複数回答)

所属先の事業形態	件数
訪問看護事業所	73
病院	10
療養通所介護施設	7
看護小規模多機能型	6
放課後等デイサービス	4
退院支援	3
相談事業	2
ナーシングホーム	1
ナーシングデイ	1
その他	0



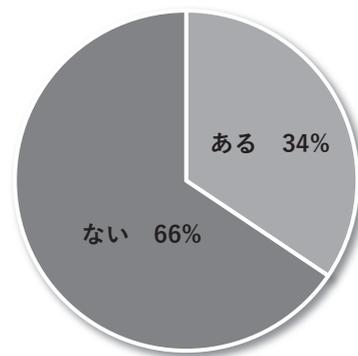
4) 回答者の業務外活動 (n=90 複数回答)

業務外活動	件数
研修等の講義、講演	70
訪問看護	37
自治体・看護協会などの委託等の事業	29
研究、学会発表	21
事業所アドバイザー	7
特定行為	7
まちの保健室等の相談	4
無回答	2
災害支援	1
地域連携（連絡協議会など）	0
その他	0

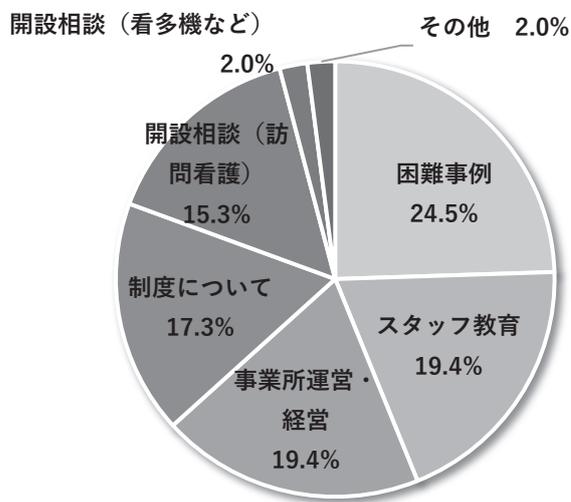


5) 相談活動を実施したことがあるか？ (n=90)

	人数
ある	31
ない	59



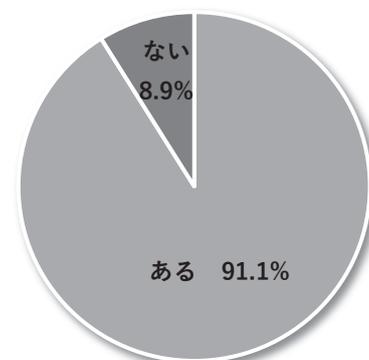
6) どんな相談を受けたか？ (n=31 複数回答)



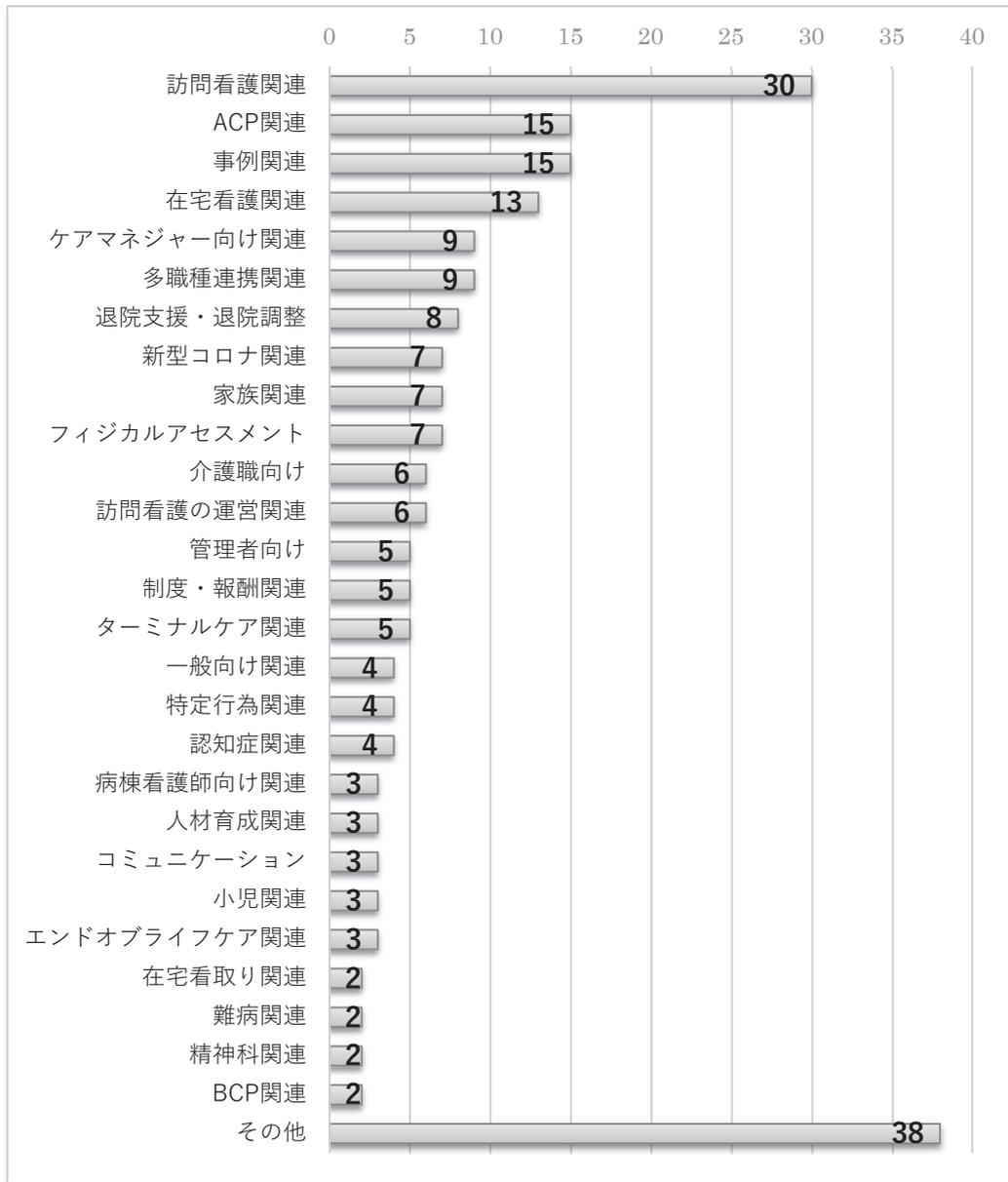
その他では、「リスクマネジメント家族支援」、「法人トップとの関係」という回答があげられた。

7) 講義や講演を依頼され、実施したことがあるか？ (n=90)

	人数
ある	82
ない	8

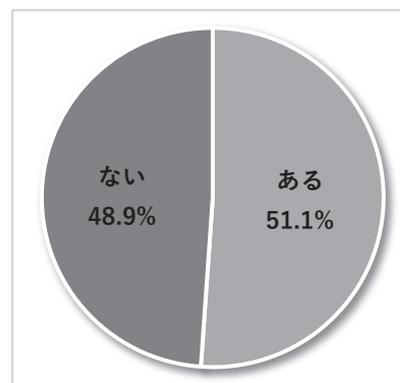


8) どんなテーマで行ったか？ (n=82 複数回答)



9) 研究や発表を実施したことあるか？ (n=90)

	人数
ある	46
ない	44

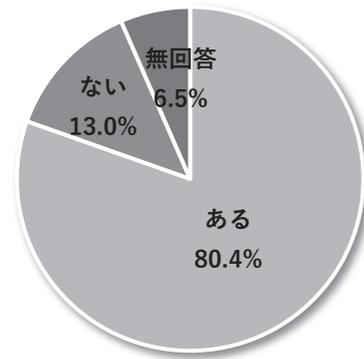


研究テーマについて最も多いのは「看取り」に関するテーマ。次いで、「多職種連携」「訪問看護教育関連」に関することであった。このほか、「ACP」「認知症」「心不全」「嚥下障害」などに関する回答も見られた。

10) 学会で発表したことがあるか？ (n=46)

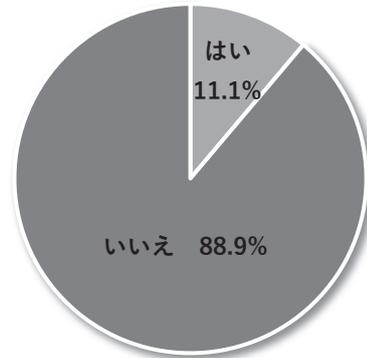
	人数
ある	37
ない	6
無回答	3

最も多かった学会は「日本在宅看護学会」。「家族看護学会」など在宅関係の学会との回答が多く見られた。

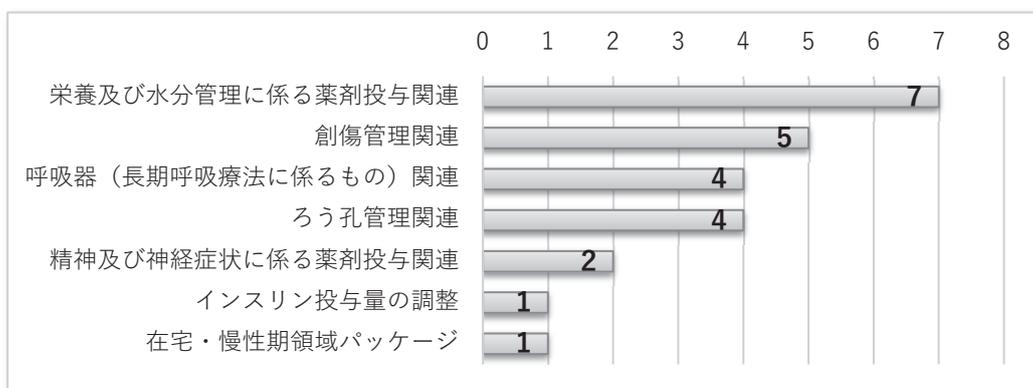


11) 特定行為研修を修了したか？ (n=90)

	人数
はい	10
いいえ	80

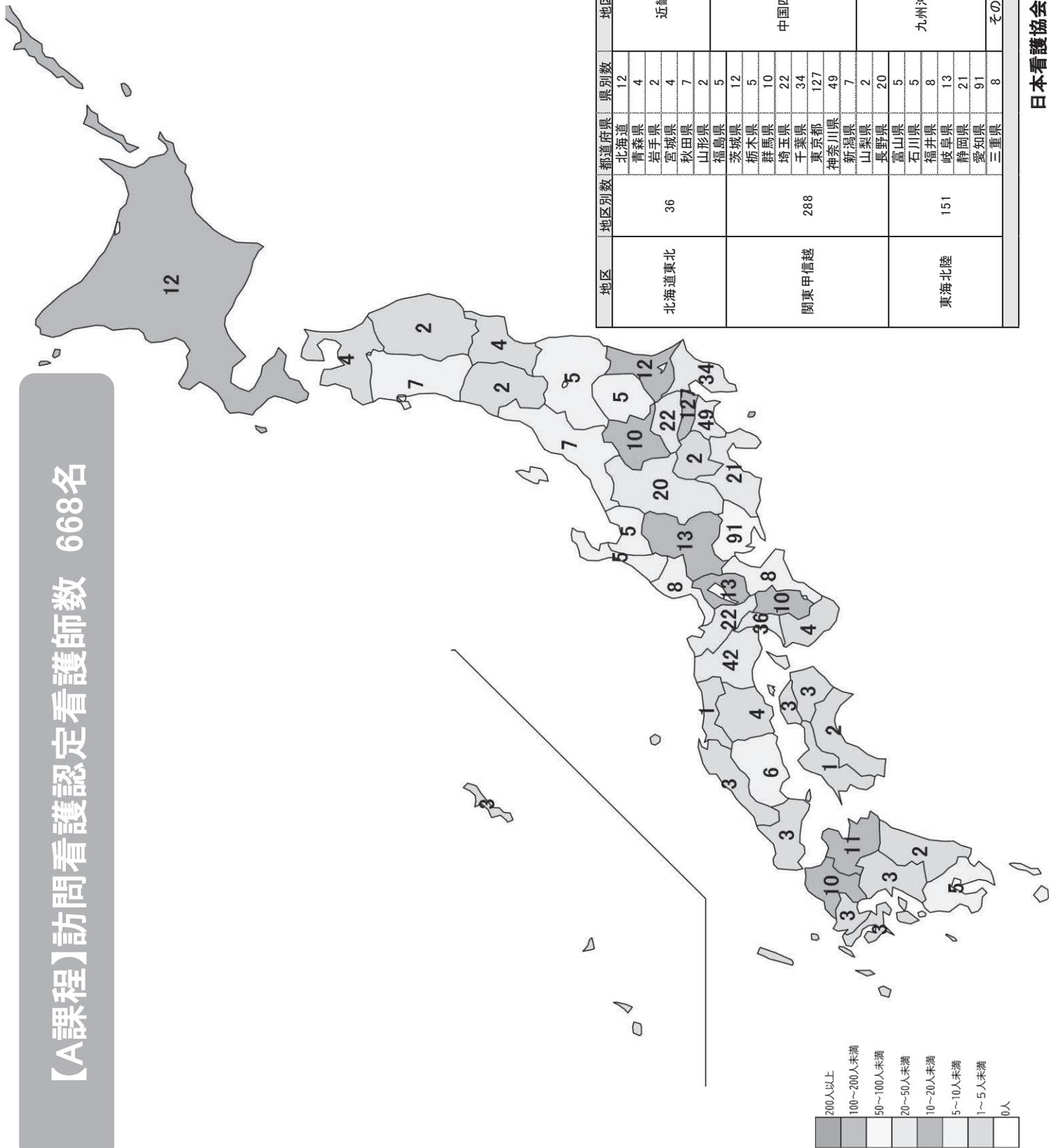


12) 修了した分野はどの分野か？ (n=10 複数回答)



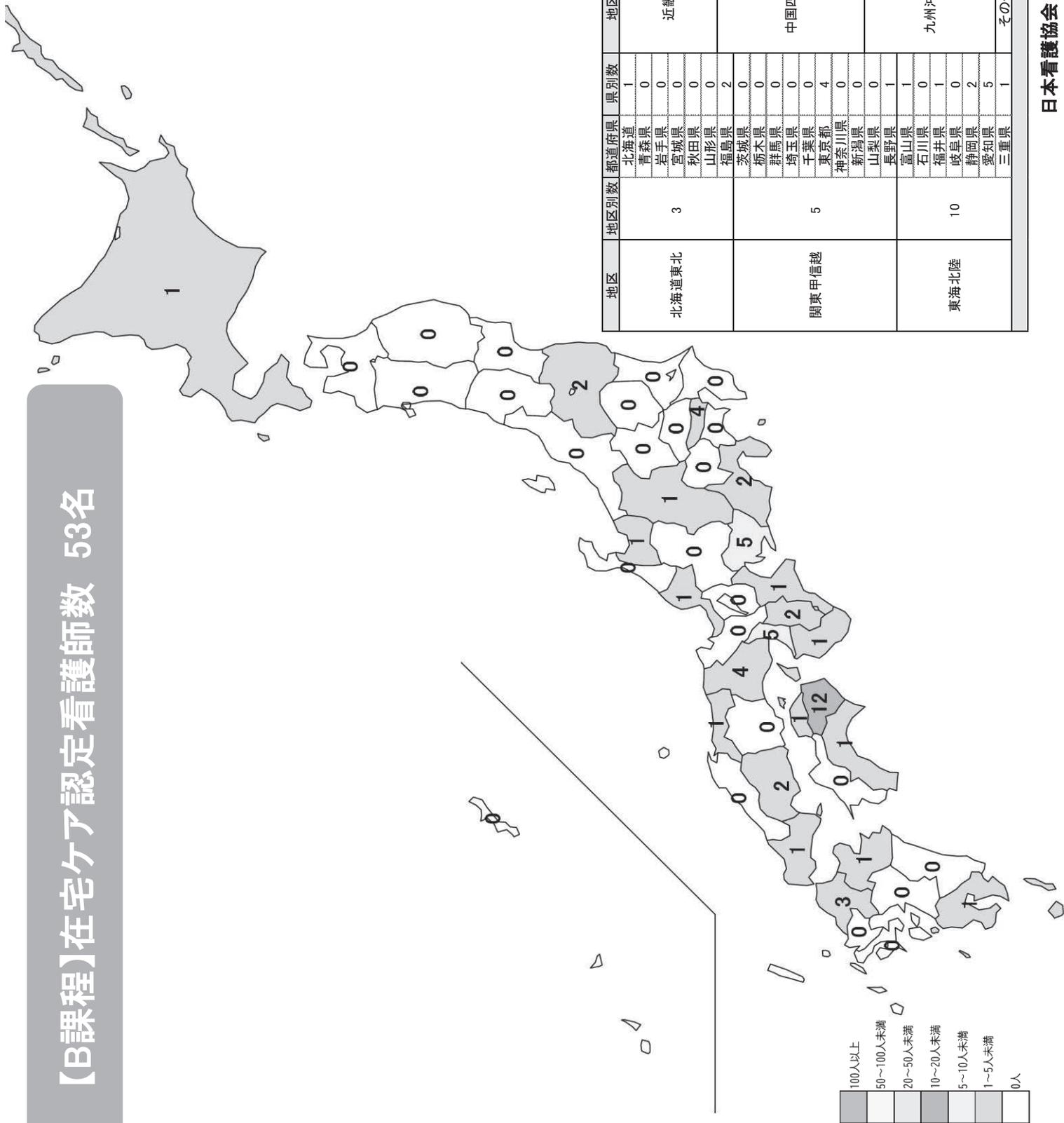
以上

【A課程】訪問看護認定看護師数 668名



地区	地区別数	都道府県	県別数	地区	地区別数	都道府県	県別数
北海道東北	36	北海道	12	近畿	127	滋賀県	13
		青森県	4			京都府	22
		岩手県	2			大阪府	36
		宮城県	4			兵庫県	42
		秋田県	7			奈良県	10
		山形県	2			和歌山県	4
		福島県	5			鳥取県	1
		茨城県	12			鳥根県	3
		栃木県	5			岡山県	4
		群馬県	10			広島県	6
関東甲信越	288	埼玉県	22	中国四国	26	山口県	3
		千葉県	34			徳島県	3
		東京都	127			香川県	3
		神奈川県	49			愛媛県	1
		新潟県	7			高知県	2
		山梨県	2			福岡県	10
		長野県	20			佐賀県	3
		富山県	5			長崎県	3
		石川県	5			熊本県	3
		福井県	8			大分県	11
東海北陸	151	岐阜県	13	九州沖縄	40	宮崎県	2
		静岡県	21			鹿児島県	5
		愛知県	91			沖縄県	3
		三重県	8			(海外)	0
		その他	0			総数	668

【B課程】在宅ケア認定看護師数 53名



地区	地区別数	都道府県	県別数	地区	地区別数	都道府県	県別数		
北海道東北	3	北海道	1	近畿	12	滋賀県	0		
		青森県	0			京都府	0		
		岩手県	0			大阪府	5		
関東甲信越	5	宮城県	0			中国四国	18	兵庫県	4
		秋田県	0					奈良県	2
		山形県	0					和歌山県	1
		福島県	2					鳥取県	1
		茨城県	0					島根県	0
		栃木県	0					岡山県	0
		群馬県	0					広島県	2
		埼玉県	0					山口県	1
		千葉県	4					徳島県	12
		東京都	0	香川県	1				
神奈川県	0	愛媛県	0						
東海北陸	10	新潟県	0	九州沖縄	5			高知県	1
		山梨県	0					福岡県	3
		長野県	1					佐賀県	0
		富山県	1					長崎県	0
		石川県	0					熊本県	0
福井県	1	大分県	1						
岐阜県	0	宮崎県	0						
静岡県	2	鹿児島県	1						
愛知県	5	沖縄県	0						
三重県	1	その他 (海外)	0			総数	53		

2022 年度日本財団助成事業

訪問看護認定看護師による在宅ケア・在宅看取り活動の推進事業報告書

2023 年 3 月 31 日 印刷・発行

発行



一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2 日本看護協会ビル 5 階

公益財団法人日本訪問看護財団内

TEL 03-5778-7008

FAX 03-5778-7009

URL <https://jvncna.net/>

印刷

株式会社 サンワ

- 記載事項の一部または全部について、許可なく複写・複製することを禁じます

Supported by  日本 財団 THE NIPPON
FOUNDATION